

業務功程報告書

福井縣立種畜場編

昭和六年度



14. 21-574



1200501162578



始

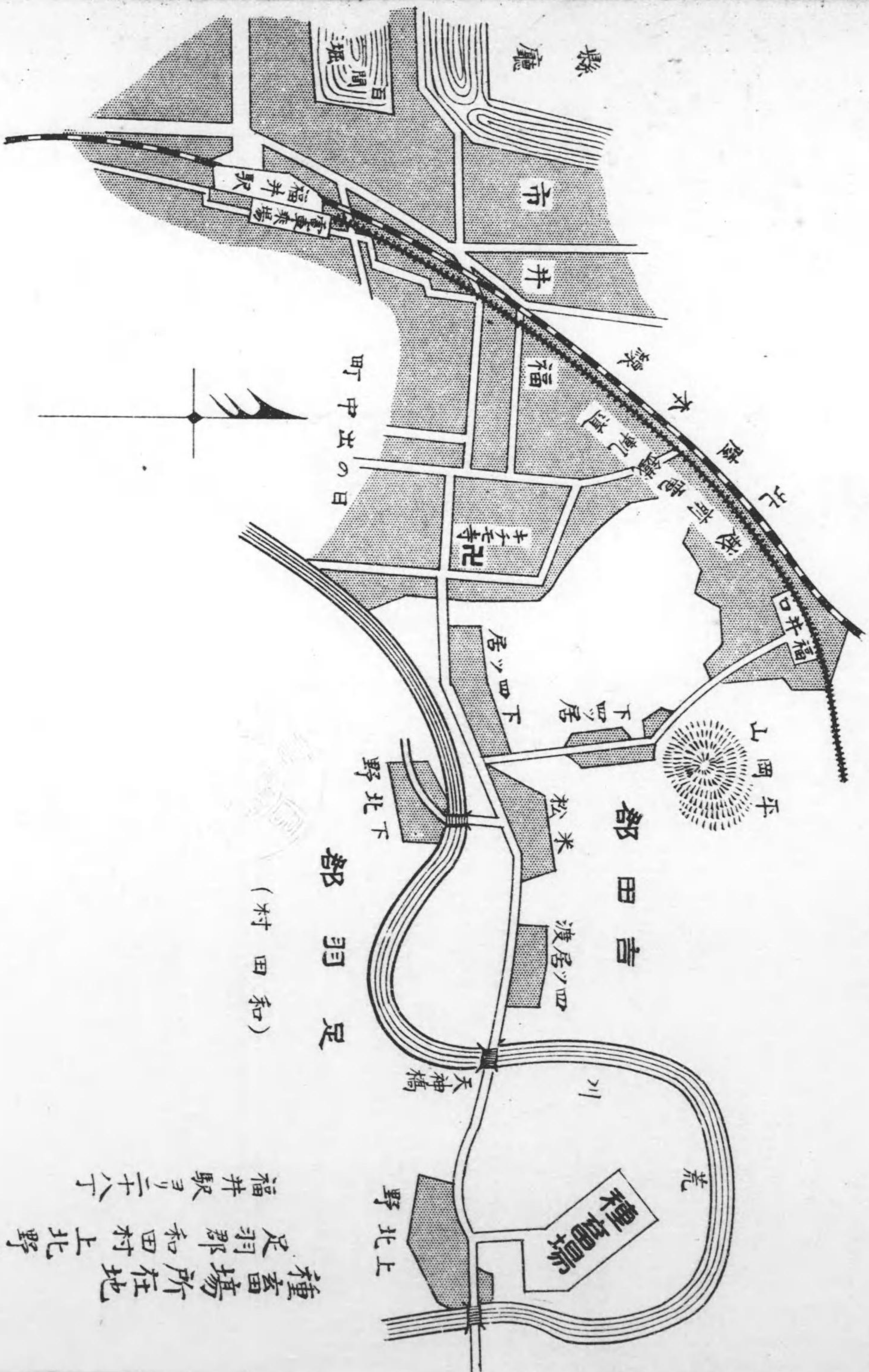


昭和六年度

業務功程報告書

福井縣立種畜場

種畜場所在地在野場圖

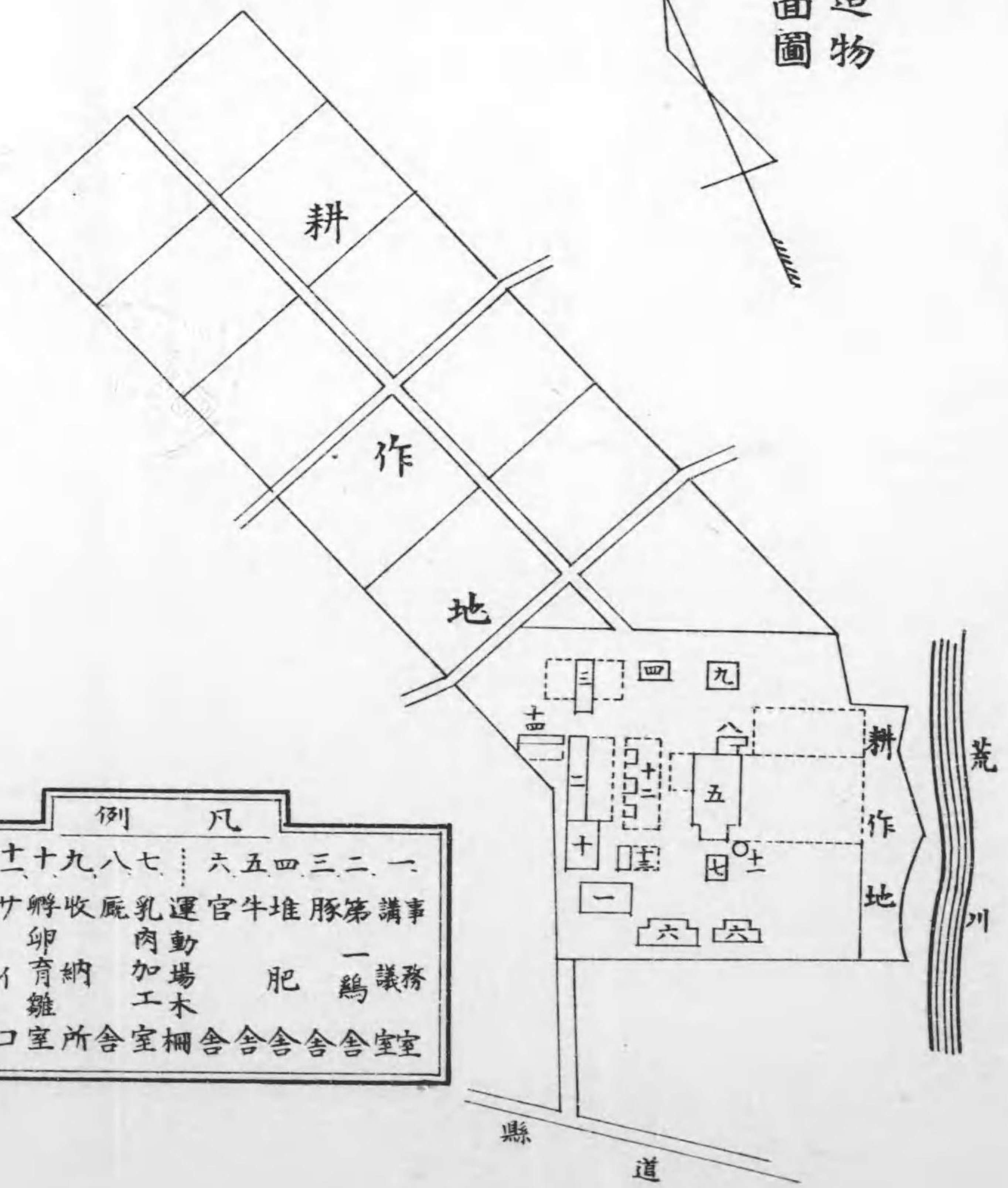


種畜場所在地
足羽郡和田村上北野
福井駅ヨリ二十ハ

(和田村)

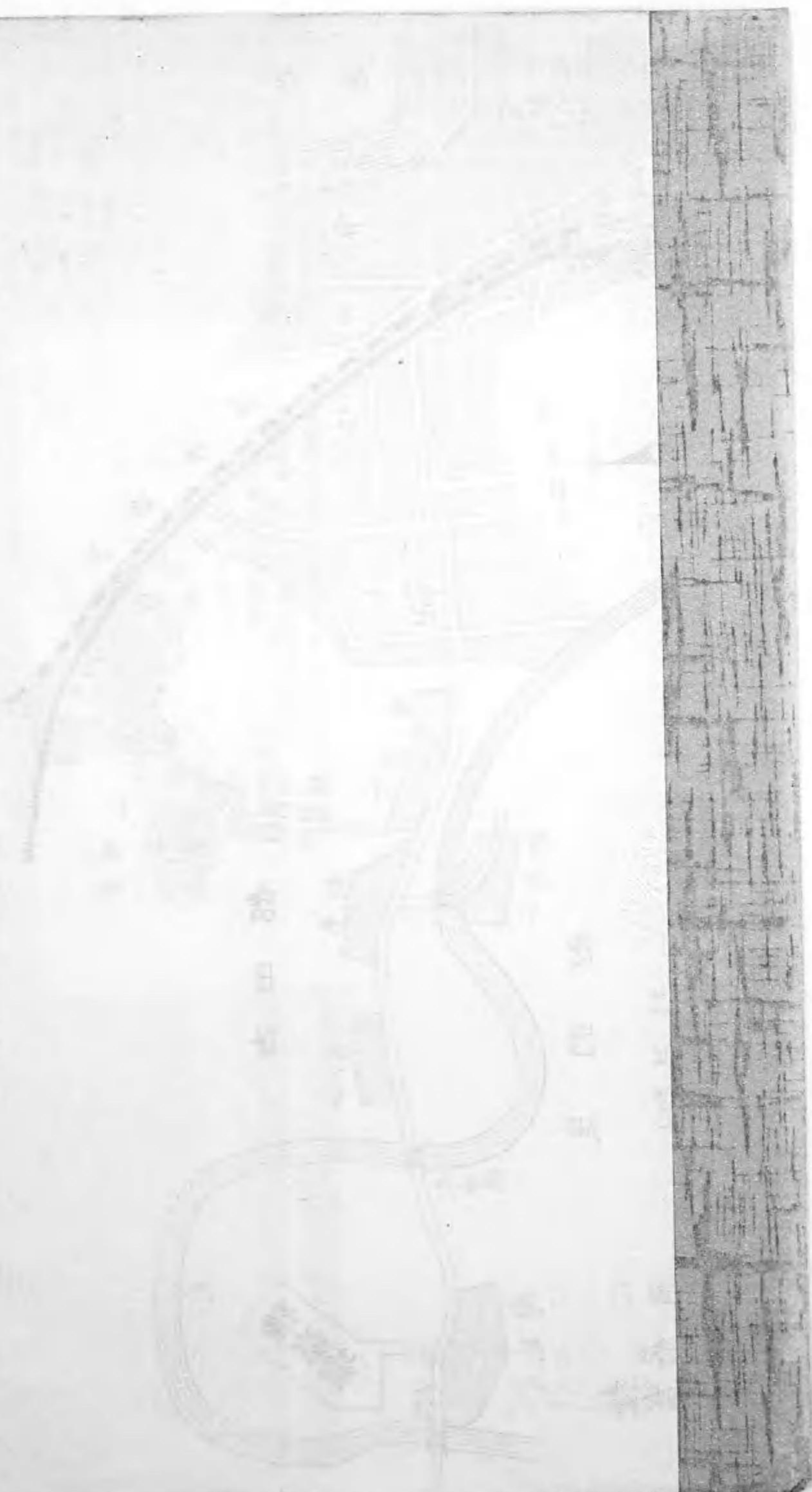
頁	行	正	誤
二〇	一	原料量	原料量
二〇	五	中ヨークシャー種	中ヨークシャー種
二〇	五	仔豚ノ育成	仔豚ノ育成
四二	五	種鶏飼料配合例(單位瓦)	
六四	一四	種豚種禽	種豚種畜
六五	六	委託種禽	委託種付
六九	題目	候補種牡牛	候補種牛
七〇	七	第七條	第七號
	第四條	豫算範圍	豫想範圍

種畜場營造物
及耕作地平面圖



例		凡												
十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
第	第	コ	サ	解	收	廐	乳	運	官	牛	堆	豚	第	講
二	二	口	卵	育	納	肉	動	場	肥	鷄	議	務		
鷄	雞	舍	舍	口	室	所	舍	室	柵	舍	舍	舍	舍	室

圖 種畜場營造物及耕作地平面圖



14-21-574

昭和六年度福井縣立種畜場業務功程報告書目次

第一章 總說

一、沿革	一
二、位置	二
三、地	二
四、氣象	二
五、營造物	三
六、經營費	四
七、事業之概況	七
八、事務之概況	八
九、職員及備員	九
十、職員及備員之異動	九
二、職員出張	一〇
(イ)縣内	一〇
(ロ)縣外	二
ホ、參觀人員	二
ヘ、質疑應答	二
ト、文書發收件數	二

第二章 種畜種禽

一、畜牛	二
イ、畜牛現在表	二
一、種牝牛	三
二、種牝牛	三
三、生產牛	三
ロ、畜牛異動表	三
ハ、月別延飼養頭數表	三
ニ、種牝牛種付成績表	三
ホ、種牝牛余勢種付成績表其一	三
ヘ、種牝牛余勢種付成績表其二	三
ト、泌乳調査表	三
チ、生產牛乳ノ處理	三
二、豚	九
イ、豚現在表	九
一、種牝豚	一〇
二、種牝豚	一〇
三、仔豚	二



- 〇、種豚異動表……………三三
- 八、種豚蕃殖成績表……………三三
- 一、種牡豚種付成績……………三三
- 二、種牝豚種付成績……………三三
- ニ、年度內生產仔豚異動表……………三五
- ホ、種豚拂下表……………三六
- ハ、最近五ヶ年間種豚拂下比較表……………三六
- ト、仔豚發育成績表……………三九
- 三、雞……………三〇
- イ、種雞現在表……………三〇
- ロ、種雞拂下表……………三二
- ハ、種雞年齡別拂下表……………三三
- ニ、最近五ヶ年間種雞拂下比較表……………三三
- ホ、種卵拂下表……………三三
- ヘ、人工孵化成績表……………三三
- ト、產卵調查表……………三四
- チ、最近五ヶ年間產卵成績比較表……………三五
- リ、育雛成績概要……………三六
- ヌ、委託種禽育成所……………三七
- 一、委託種禽育成所事業成績……………三六

- 第三章 飼養管理……………四〇
- 一、飼 養……………四〇
- イ、畜牛飼料給與料及配合例……………四一
- ロ、犢ノ育成……………四一
- ハ、種豚飼料配合例……………四一
- ニ、種雞飼料配合例……………四二
- ホ、育雛飼料配合例……………四三
- ヘ、飼料ノ購買及消費……………四四
- 二、管 理……………四六
- 三、衛 生……………四六
- イ、畜牛衛生……………四六
- 第四章 乳肉加工……………四七
- 一、乳 加 工……………四七
- 二、肉 加 工……………四八
- 第五章 試驗事項……………四九
- 一、人工授精試驗……………四九
- 第六章 耕 作……………四九
- 一、農場經營ノ概況……………四九
- 二、飼料作物栽培ノ概況……………五〇
- イ、飼料作物栽培成績表……………五〇

- 〇、牧草收穫表……………五一
- ハ、農場作業使用人員月別表……………五二
- ニ、飼料作物栽培勞力調査……………五三
- ホ、青刈大豆栽培比較調査……………五四
- 第七章 指導獎勵……………五五
- 一、質疑應答及講習講話……………五五

附 錄

- 福井縣立種畜場職制……………五七
- 福井縣立種畜場處務規程……………五八
- 福井縣立種畜場處務細則……………五九
- 種豚種禽種卵配付規程……………六三
- 種豚種禽種卵配付價格……………六三
- 種牡牛種付規程……………六六
- 候補種牡牛拂下規程……………六九
- 委託種禽育成所規程……………七〇
- 委託種禽育成所……………七二
- 備員心得……………七三
- 種牡牛表……………七六

昭和六年度福井縣立種畜場業務功程報告書

第一章 總 說

革

本縣畜産ノ起源ハ文献ニ徴スヘキモノナク其由來ヲ知ル能ハスト雖氣候中和ニシテ地味豊饒加之山河ノ配置宜シキヲ得テ莠草ノ繁茂夥シキカ故ニ昔日モリ養畜ノ業行ハレタルヤヲ想起セシムルモノアリ明治ノ初年土産牛ノ体格矮小品位劣惡ナルヲ慨スル人士等ニヨリテ短角種及「ホルスタイン」種牝牛ノ購入ヲナシ銳意畜牛ノ改良ニ努メタリト雖一進一退成績ノ見ルヘキモノナクシテ徒ラニ悲境ヲ辿ルニ過キサリキ明治三十三年以來縣費ヲ以テ「ホルスタイン」種牝牛ヲ購入シテ乳用種ノ改良ニ努ムルト共ニ一面ニハ又使役ヲ專ラトスル地方ニ對シテハ在來種牛ノ特質美點ヲ尊重シテ改良増殖ヲ圖レリ

爾來幾星霜回ヲ重テ實驗シ乳用種牛ニアリテハ「ホルスタイン」種ヲ以テ最モ氣候風土ニ適應シ役用牛ニアリテハ改良和種ヲ其ノ用途ニ充ツルヲ以テ最モ良策ナルモノトシ愈々方針ヲ定メテ邁進セリ

養鶏養豚ニアリテハ佛教ノ盛ナル關係上飼養尠ク他府縣ニ比シ著シキ遜色アリタルモ縣當局ハ之レカ飼養ノ獎勵ニ努メタル結果漸次其數ヲ増シ數倍ノ増加ヲ算スルニ至レリ既往ノ狀態ハ大略以上ノ如クナルモ時代ノ趨移ハ益乳肉卵ノ需要ヲ加ヘ併テ家畜家禽ヲ加味セル農業ハ農家經營ヲ合理化スル上ニ於テ最緊急ナル事業ナルヲ以テ之レカ範ヲ示シ實地指導ノ機關タラシムルト共ニ種畜種禽ノ配付ヲ普カラシメントシテ茲ニ當場ノ設立ヲ企圖スルニ至レリ

設立ニ要セシ經費豫算ハ之レヲ大正十一年度通常縣會ニ提出シタルニ最モ意義アル施設トシテ熱誠ナル協賛ヲ得即チ十一年度ヨリ三ヶ年繼續ヲ以テ新設スルコト、シ農商務省亦十一年三月二十四日附テ以テ設立ノ認

可ヲ與ヘラレタリ而シテ同年四月場長ノ任命ト共ニ仮事務所ヲ縣廳内ニ設ケ翌十二年十月事務所ノ竣功ト共ニ移轉今日ニ及ヘリ

二、位 置

縣廳及福井驛ヨリ東方約三十町ニ位シ道路ハ縣道ニシテ極メテ平坦且ツ荒川ト稱スル河川ハ本場ヲ圍繞シ福井市ノ中央ヲ貫通スル足羽川ニ通スル等能ク舟車ノ便ヲ有セリ土地高燥豐饒ニシテ從來主トシテ蔬菜ノ栽培ヲ行ヒタル畑地ト梨園ヲ開拓シテ設置セシモノニシテ水質良好飲料ニ適ス圓山ノ丘陵ハ指顧ノ間ニ展望シ遙カニ望メハ加賀白山ノ秀嶺雲煙ノ間ニ横タハリ望涯ノ風光雄大明眉ナルノ地ナリ

三、用 地

用地ハ總面積僅カニ三町五反八畝十六歩四合ナルヲ以テ事業ノ施行上常ニ集約的ナル利用方法ヲ研究シ其ノ範ヲ示セリ而シテ土地利用ノ區分ヲ示セハ左ノ如シ

- 建 物 敷 地 一千四百六十五坪四合
- 家畜家禽舍附屬運動場 八百六十六坪
- 牧 草 栽 培 地 一町一反一畝二十七歩
- 通 路 及 耕 作 路 五百八十一坪
- 耕 作 地 一町五反一畝十七歩

四、氣 象

夏季ハ風位概ネ北風又ハ南風ニシテ攝氏二十八度ヨリ三十三、四度ノ間ヲ昇降ス冬季ハ風位概ネ北西ニシテ氣温ハ攝氏二度ヨリ零下四度ノ間ニアリテ初霜ハ十一月初メヨリ晚霜ハ四月上旬ニ及ヒ降雪ハ十一月下旬ナルモ積雪ニ至ラスシテ多クハ十二月又ハ一月ニ入りテ尺餘ニ及フヲ普通トセシモ本年ハ近年稀ナル薄雪ナリ

五、營 造 物

種 類	個 數	構 造	坪 數	建 築 セ シ 年 度
牛 舍	一	木造瓦葺平屋	八二、〇〇	大正十一年度
豚 舍	一	木造亞鉛葺平屋	三二、〇〇	同十一年度
堆 肥 舍	一	木造亞鉛葺平屋	一〇、〇〇	同十一年度
牛 運 動 柵 場	延長百十七間	丸太造リ高サ四尺五寸	五九、〇〇	同十一年度
豚 運 動 柵 場	延長六十一間	鐵網高サ四尺	六四、五〇	大正十一年度
井 戸	四	盤 拔 井 戸 三一		大正十一年度ニケ 同十二年 度一ケ 同十三年度一ケ
講 事 務 所 及 室	一	木造瓦葺二階建	五三、〇〇	大正十二年度
雞 舍	二	木造瓦葺平屋	五五、七五	大正十二年度
右 動 場 所 木 柵 屬	延長百五間半	金 網 張	九七、五〇	大正十二年度
舍 宅	二棟四戸分	木造瓦葺平屋	六二、〇〇	昭和四年度
解 卵 室	一	木造瓦葺平屋	三〇、〇〇	大正十二年度一棟
第一 育 雛 舍	一	木造瓦葺平屋	三〇、〇〇	大正十三年度
右 動 場 附 木 柵 屬	延長十九間半	金 網 張	一三、五〇	大正十三年度

收納所	節	豫算額	決算額
木造亞鉛葺二階建	一	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
木造瓦葺平屋	一	五,〇〇〇	五,〇〇〇
木造亞鉛葺平屋	一	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇
コンクリート建	一		
木造亞鉛葺平屋	三	九,〇〇〇	九,〇〇〇
金網張	一	三六,〇〇〇	三六,〇〇〇
木造亞鉛葺平屋	一	八,〇〇〇	八,〇〇〇
金網張	一	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇

六、經費（歳入）

目	節	豫算額	決算額
木造亞鉛葺二階建	一	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
木造瓦葺平屋	一	五,〇〇〇	五,〇〇〇
木造亞鉛葺平屋	一	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇
コンクリート建	一		
木造亞鉛葺平屋	三	九,〇〇〇	九,〇〇〇
金網張	一	三六,〇〇〇	三六,〇〇〇
木造亞鉛葺平屋	一	八,〇〇〇	八,〇〇〇
金網張	一	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇
計		六,七七,〇〇〇	四,三七,四〇〇

目	節	豫算額	決算額
俸給	技師給	五,五三六,〇〇〇	五,三三〇,四九〇
	技師給	一,六〇〇,〇〇〇	一,四九一,六六〇
	技師給	三,四五六,〇〇〇	三,三四二,八三〇
	主事補給	四八〇,〇〇〇	五一六,〇〇〇
雑給	技師旅費	四,八九八,〇〇〇	四,九六五,〇八〇
	技師旅費	二五三,〇〇〇	二二七,六八〇
	技師補旅費	九〇三,〇〇〇	八九九,八七〇
	牧夫給	二,一九六,〇〇〇	二,二二五,〇〇〇
	農夫給	八七六,四〇〇	八二五,六六〇
	小使給	三三九,四〇〇	二三六,〇〇〇
計		六,七七,〇〇〇	四,三七,四〇〇

（歳出）

場費	雇人料	惠與	備品費	消耗品費	種豚購入費	種卵購入費	肥料費	種苗費	飼料費	宿直賄料	通信運搬費	圖書印刷費	借地料
	一九五〇〇	一四〇〇〇	三四九〇〇〇	七二〇〇〇	五〇〇〇〇	九〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二三〇〇〇	四、三二〇〇〇	九一五〇〇	五〇〇〇〇	六四〇〇〇	六九〇〇〇
	一九四九二〇	四七二〇〇〇	三三八八〇〇	七〇〇七八〇	三八〇〇〇	八八八〇〇	九七六〇	二二九〇〇	四、三〇七九〇	九一五〇〇	四九九一〇	六二七一〇	四八六九八〇
			六、二八五九七〇										

牽付費	試驗費	雜費	修繕費	牛舎修繕費	小破修繕	計
二五〇〇〇	四〇〇〇〇	一八〇〇〇	一五四〇〇〇	一三〇〇〇	四一〇〇〇	一七、一三〇〇〇
七五三〇	三九五九〇	一七九二〇	一九三九五〇	一一三〇〇〇	八〇九五〇	一六、七九五九〇

七、事業ノ概況

本年度ニ於テ行ヒタル事業ノ項目左ノ如シ

- 一、種牛ノ蕃殖及育成
- 二、種牡牛ノ餘勢種付
- 三、牛酪及其ノ他ノ乳製品製造試験
- 四、候補種牡牛ノ拂下
- 五、畜牛人工授精試験
- 六、種豚ノ蕃殖並育成
- 七、候補種豚ノ配付
- 八、豚肉加工試験

- 九、種鶏孵化並育雛
- 一〇、種鶏ノ産卵能力調査
 - 一一、種鶏種卵ノ配付
 - 一二、委託種禽育成所監督並指導
 - 一三、飼料作物ノ栽培
 - 一四、畜産ニ關スル講習講話實地指導並質疑應答
 - 一五、各種畜産共進會並品評會ノ審査

八、事務ノ概況
イ、職員

任命年月日	職名	氏名
昭和四年四月四日	場長 地方農林技師	坂井健一郎
昭和三年四月一日	農林技手	佐藤彌太郎
昭和六年十月一日	同	山内勇信
昭和二年五月二十五日	同	龍田泉
昭和四年三月三十一日	同	鈴木誠
昭和六年三月三十一日	勸業主事補	栗生山磯次

ロ、備員

採用年月日	備員名	氏名
大正十五年八月五日農手ヨリ轉ス	牧手	寺下九平
昭和二年十二月四日	同	佐野伊登志
昭和二年十一月三十日	同	伊藤政名
昭和六年三月十三日	同	山田務
昭和五年六月二十五日	同	五十嵐松雄
昭和六年十二月二十五日	農手	富田與一
昭和五年六月二十五日	小使	近藤春吉

ハ、職員及備人ノ異動

事由	職名	氏名
昭和六年九月二十五日 沖繩縣へ出向	農林技手	薦谷壽亮
昭和六年十月一日 任命	同	山内勇信
昭和六年十二月二十五日 解備	農手	富田與一作

昭和六年十二月二十五日
命備

同

富田與一

二、職員出張

一、縣内

郡市別	實地指導		講習講話		審査用務		其ノ他	
	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数
足羽郡	一	一	一	一	一	一	一	一
吉田郡	一	一	二	二	一	一	一	一
坂井郡	九	二	九	三	一	一	一	一
大野郡	七	一〇	六	三	一	六	二	四
今立郡	三	三	五	五	一	一	一	一
丹生郡	三	三	八	四	一	一	一	一
南條郡	六	六	六	七	一	一	一	一
敦賀郡	六	九	三	六	一	八	二	四
三方郡	二	三	一	二	一	一	一	一
遠敷郡	六	三	三	九	一	一	一	一

大飯郡	福井市	計
二	一	五
二	一	七〇
一	一	四
一	一	七
一	一	四
五	三	三
一	一	六
一	一	二

口、縣外

一、講習會受講並種豚購入用務 一回 十日

木、參觀人員

區分	人員
官公吏	八〇人
農及畜産業	八〇人
學生々徒	八五人
其ノ他	一五人
計	一、七五人

へ、質疑應答

文書ニヨル質疑及參觀ト質疑トヲ兼テタル來場者等ニハ常ニ實地ニ就キ懇切丁寧ニ回答及指導ヲナセリ

ト、文書發受件數

區分	發	送	收	受
件數		一、二七		一、八〇五

第二章 種畜種禽

一、畜牛

當場繁養ノ畜牛ハ乳用種ニ在リテハ「ホルスタイン」種役肉用種ニ在リテハ改良和種ヲ飼養蕃殖シ種牝牛ハ場内種付ノ外民間ノ希望ニ應シ餘勢種付ヲ行ヒ以テ縣内産牛ノ改善ニ努メタリ
 産積中牝ハ育成シテ体格及發育ヲ考査ノ上候補種牝牛拂下規程ニ依リ拂下ヲ行ヒタリ
 生産牛乳ハ積育成ノ爲使用シ殘乳ハ其ノ大部分ヲ「バター」製造其ノ他加工試験ニ供シ一部ハ生乳ノ儘之ヲ拂下タリ

イ、畜牛現在表（年度末現在）

一、種牝牛 二頭

名	號	種類	生年月	毛色	産地	血	統
インカサードツチラン	ドアーチス號	ホルスタイン種	昭和四年一月	白黒	千葉縣	父サーインカメー八世號 母ダツチランドクインアーガス號	
出雲二世號		改良和種	昭和二年二月	黒	當場	父不明 母出雲號	

二、種牝牛 四頭

名	號	種類	生年月	毛色	産地	血	統
フイーマン號		ホルスタイン種	大正十二年四月	白黒	岩手縣	父ロードヨーム號 母第五ヘンドリカ號	
第三スシーセコンド	オームスビー號	同	大正十二年十月	黒白	北海道	父サージョハヤビーターチエマシーデス號 母アーチーローリースーセコンド號	
スシー三世號		同	昭和三年七月	黒白	當場	父第廿八サージョハヤビーターチエマシーデス號 母第三スシーセコンドオームスビー號	
出雲四世號		改良和種	昭和四年三月	黒	當場	父島若號 母出雲號	

三、生産牛 五頭

名	號	種類	性	生年月	毛色	血	統
スシー四世號		ホルスタイン種	牝	昭和五年三月	黒白	父第二十八サージョハヤビーターチエマシーデス號 母第三スシーセコンドオームスビー號	
インカオームスビー		同	牝	昭和六年六月	黒白	父インカサードツチランドアーチス號 母スシー三世號	
インカスシーオームス		同	牝	昭和六年十月	黒白	父インカサードツチランドアーチス號 母第三スシーセコンドオームスビー號	
インカヘンドリツクヨ		同	牝	昭和七年一月	黒白	父インカサードツチランドアーチス號 母フイーマン號	
第二十大鳳號		改良和種	牝	昭和六年五月	黒	父第十九大鳳號 母出雲四世號	

ロ、畜牛異動表

名	號	種類	性	生年月	毛色	産地	移動年月日	摘	要
スレー三世號		ホルスタイン種	牝	昭和三年七月	黒白	當場	昭和六年四月一日	當場種牝牛ニ編入	
出雲二世號		改良和種	牝	昭和二年二月	黒	當場	昭和六年四月一日	當場種牝牛ニ編入	
第十九大鳳號		改良和種	牝	大正十年一月	黒	當場	昭和六年七月十八日	藤原正一ニ拂下	
フイーマン五世號		ホルスタイン種	牝	昭和三年十二月	白黒	當場	昭和六年七月十八日	佐飛喜十郎ニ拂下	
フイーマン六世號		同	牝	昭和三年十二月	黒白	當場	昭和六年十一月十三日	大飯郡畜産組合ニ拂下	

フイーマン七世號	同	同	昭 和 五 年	白 黑	當 場	昭 和 七 年	大 野 郡 富 田 村 酪 農
第二十八サージョハナビ	同	同	十 月	白 黑	同	三 月 二 十 八 日	組 合 一 拂 下
タチエマシーテス號	同	同	大 正 十 二 年	黑 白	北 海 道	同	大 島 信 夫 二 拂 下

八、月別延飼養頭數表

區 分	種牝牛			種牝牛			候補牛			種 積	計	改 良			種 積	計
	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛	種牝牛			種牝牛	種牝牛	種牝牛		
十二月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
十一月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
十月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
九月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
八月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
七月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
六月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
五月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
四月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
三月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
二月	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六
計	六	九	六	六	九	六	六	九	六	六	六	六	六	六	六	六

二、種牝牛種付成績表

種 牝 牛 名 號	供 用 種 牝 牛 名 號	最 終 種 日	種 付 回 數	分 年 月 日	備 考	計		
						一 月	二 月	三 月
フイーマン號	インカサーダツチ ランドアーチス號	昭和六年 四月十日	二	昭和七年 一月十六日	牝犢分娩	一	二	三
第三スシーセコン ドオームスビー號	同	昭和六年 一月廿一日	一	昭和六年 十月廿七日	牝犢分娩	一	一	二
同	同	昭和七年 二月十二日	一	—	妊娠中	—	—	—
スシー三世號	インカサーダツチ ランドアーチス號	昭和五年 九月廿四日	二	昭和六年 六月廿三日	牝犢分娩 人工授精施術ニヨリ受胎	—	—	—
同	同	昭和七年 一月廿六日	五	—	不明	—	—	—
出雲四世號	第十九大鳳號	昭和五年 八月十三日	一	昭和六年 五月廿三日	牝犢分娩	—	—	—
同	出雲二世號	昭和六年 十一月廿二日	三	—	昭和七年九月分娩豫定	—	—	—

ホ、種牝牛餘勢種付成績表 其ノ一

一、種牡牛インカサーダッチラントアーチス號

牝牛名	生年月	最終種付年月日	種回数	分定日	管理者氏名
グレスフエンヘンド	大正十一年十二月	昭和六年五月十日	一	昭和七年二月牝犢分定	岡田才右衛門
リツクオカダ號	昭和四年八月	昭和六年八月七日	四	不妊	野村長左衛門
ホームステットダビツ	大正十五年十一月	昭和六年七月四日	一	昭和七年四月十日	長一夫
カガクインオームスビ	昭和四年四月	昭和六年九月七日	二	昭和七年六月十六日	野村紋太夫
サードブレイスノーザ	昭和三年三月	昭和六年十月十四日	二	昭和七年七月二十三日	木原才兵衛
林號	昭和二年七月	昭和六年十月二十日	二	昭和七年七月二十九日	野村長左門
サホームステットマ	大正十五年八月	昭和六年十一月十七日	三	不妊	城地六右衛門
カス號	昭和二年五月	昭和六年十一月廿一日	二	昭和七年八月三十日	野村紋太夫
クララエコウシルブイ	昭和二年五月	昭和六年十月二十日	一	昭和七年七月二十九日	福井農林學校
第二ブレスボンテヤツ	大正十四年	昭和六年十月二十日	三	昭和七年十一月七日	松原昇
クマーセーズスター號	昭和五年六月	昭和六年一月二十九日	一	昭和七年八月四日	瀧波曾平
金太郎二世號	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	岡田才右衛門
ベツシーブリリーウオ	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫
カーメド號	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫
グレスジョハナマセ	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫
ズヘンドリツク號	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫
ノザンスタマーセ	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫
ズホワイトグラハム號	昭和五年四月	昭和六年三月二十八日	一	昭和七年五月二十七日	野村紋太夫

二、種牡牛 第二十八サーショハナビーターチエマシードス號

牝牛名	生年月	最終種付年月日	種回数	分定日	管理者氏名
グレスフエンヘンド	大正十五年九月	昭和七年一月二十日	二	昭和七年十月二十九日	野村長左衛門
ツク二世號	昭和四年三月	昭和七年二月七日	一	昭和七年十一月十一日	加藤外市
アイダスツシーグレン	昭和五年七月	昭和七年三月七日	一	昭和七年八月四日	福井農林學校
金太郎四世號	昭和三年十月	昭和七年三月二十八日	一	昭和七年八月四日	瀧波曾平
第五マドリガルジョハ	昭和三年十月	昭和七年三月二十八日	一	昭和七年八月四日	瀧波曾平
牝名	生年月	最終種付年月日	種回数	分定日	管理者氏名
第四レイデイ號	昭和四年八月	昭和六年五月八日	一	不妊	吉川清左衛門
グレスフエン第十二	昭和二年十二月	昭和六年八月十八日	二	昭和七年五月二十七日	野村長左衛門
ガール八世號	昭和三年十月	昭和六年九月十五日	三	昭和七年六月二十四日	野村長左衛門
コランサムルター二世	昭和五年三月	昭和六年十月三十日	二	不妊	今井寅治
松風號	大正十三年	昭和六年十一月廿二日	一	不妊	今井寅治
秋菊號	昭和二年一月	昭和七年一月六日	二	不妊	今井寅治
定明號	昭和二年一月	昭和七年一月六日	二	不妊	今井寅治

へ、種牡牛餘額種付成績表 其ノ二

供用種牡牛	本年産種付頭數	同上年頭數	授胎頭數	前年度種付計		本年産種付計	本年度種付計	
				牝	牡		牝	牡
第二十八サージョハナビーターエマシードス號	六	二	二	—	—	—	—	—
インカサードツチラン	一九	三五	一五	四	四	九	—	—
ドアーチス號	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二五	四六	一七	四	四	二二	—	—

備考 一、種牡牛第二十八サージョハナビーターエマシードス號ハ昭和七年三月二十八日廢用處分セリ
 一、種牡牛インカサードツチランドアーチス號前年度種付中右表生産ノ外流産二頭アリ

ト、泌乳調査表

月別	名號	總乳量	最高日	總乳量	最高日	總乳量	最高日	總乳量	最高日	月計
七月	アイーマン號	一七六、二〇〇	八、四〇〇	二、二八〇	〇、二〇〇	五五、〇〇〇	三、六〇〇	四五、三〇〇	二、六〇〇	七九、六八〇
八月	アイーマン號	九八、一〇〇	五、五〇〇	—	—	五六、三〇〇	一、九四〇〇	—	—	六四、四〇〇
九月	アイーマン號	五九、五〇〇	三、〇〇〇	—	—	四三、六〇〇	一七、〇〇〇	—	—	五三、一〇〇
十月	アイーマン號	三三、四〇〇	一、五〇〇	八六、六〇〇	一八、三〇〇	四六、〇〇〇	一五、六〇〇	—	—	五三、〇〇〇
十一月	アイーマン號	一、二八〇	〇、一〇〇	五九五、二〇〇	三三、一〇〇	三三九、一〇〇	一三、五〇〇	—	—	九三、四八〇
十二月	アイーマン號	—	—	六二、八〇〇	三三、〇〇〇	四二、八〇〇	一六、一〇〇	—	—	一〇四、六〇〇
計	アイーマン號	二〇八、三六〇	—	三三三、四八〇	—	三八七、四〇〇	—	一四七、八〇〇	—	九五〇、〇六〇

月別	名號	總乳量	最高日	總乳量	最高日	總乳量	最高日	總乳量	最高日	月計
八月	アイーマン號	九八、一〇〇	五、五〇〇	—	—	五六、三〇〇	一、九四〇〇	—	—	六四、四〇〇
九月	アイーマン號	五九、五〇〇	三、〇〇〇	—	—	四三、六〇〇	一七、〇〇〇	—	—	五三、一〇〇
十月	アイーマン號	三三、四〇〇	一、五〇〇	八六、六〇〇	一八、三〇〇	四六、〇〇〇	一五、六〇〇	—	—	五三、〇〇〇
十一月	アイーマン號	一、二八〇	〇、一〇〇	五九五、二〇〇	三三、一〇〇	三三九、一〇〇	一三、五〇〇	—	—	九三、四八〇
十二月	アイーマン號	—	—	六二、八〇〇	三三、〇〇〇	四二、八〇〇	一六、一〇〇	—	—	一〇四、六〇〇
計	アイーマン號	二〇八、三六〇	—	三三三、四八〇	—	三八七、四〇〇	—	一四七、八〇〇	—	九五〇、〇六〇

備考 一、改良和種出雲號泌乳調査ヲ一ヶ月半行ヒタリ
 一、アイーマン號第六産及スシ―三世號初産後何レモ發病セシ爲泌乳量減ゼリ

チ、生産牛乳ノ處理

本年度ノ當場生産牛乳ハ種牝牛三頭ヲ以テ九五五〇、〇六〇瓦ヲ搾取シ之ガ處分ヲ示セバ左ノ如シ
 一、生乳拂下量 二二〇一、五〇〇瓦
 一、積哺乳量 一〇八七、五〇〇瓦

- 一、バター加工原量料 五四八八、五四〇
- 一、其ノ他加工試験 六七二、五二〇
- 計 九五五〇、〇六〇

二、豚

豚ハ本縣ノ獎勵品種タル「中ヨークシャー種」ノ純粹蕃殖ヲ行ヒ生産仔豚ノ育成ノ上希望者ニ配付シ以テ縣下養豚業ノ普及發達ヲ圖レリ
 近時農村不況對策ノ一トシテ養豚ヲ志ス者多ク從テ當場ニモ配付願者激増セル爲全能力ヲ盡シテ仔豚ノ生産育成ニ努メ之ガ配付ヲ圓滑ナラシメタリ

イ、豚 現在表 (年度未現在)

一、種 牡豚 一頭

種 類	名 號	生年月	産 地	血	統	購入年月日
ヨークシャー種	アスターブライアン號	昭和五年九月	千葉縣	父フオードブライアン號 母アスターオブロージング號		昭和六年二月五日

二、種 牝豚 十三頭

種 類	名 號	生年月	産 地	血	統	購入年月
同	てふをかだ	昭和三年一月	同	父白雪號 母てふ號		昭和三年三月
同	福 千	昭和二年六月	當 場	父千種號 母千葉號		昭和四年三月
同	第二やまがら	昭和三年四月	福井縣	父白雪號 母やまがら號		昭和四年三月
同	ヘラルドホッピ	昭和四年十一月	農林省畜産試験場	父ヒストンヘラルド號 母六一號		昭和五年一月
同	福 壽	昭和五年三月	當 場	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母福千號		
同	千 鳥	昭和五年四月	同	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母千葉號		
同	山 櫻	昭和五年四月	同	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母やまがらをかだ號		
同	バイオレット	昭和五年十一月	同	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母レットヂュウエル號		
同	ヨークシャー種	昭和五年十一月	當 場	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母レットヂュウエル號		
同	ひ ばり	昭和五年十一月	同	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母第二やまがら號		
同	ヒストン	昭和五年十二月	同	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母ヒストンロバート號		

三、仔 豚 四十二頭

種 類	豚 名	産 次	生年月日	牝 頭	牡	數
ヨークシャー種	やまがらをかだ	六	昭和六年十月廿六日	一	一	二

種牝豚名	区分	回数	分娩数	性	生産頭数	異動		翌年度繰越
						拂下	斃死其他	
やまがらをかだ	ヘラルドボツビ	二	二	牝牝	二九	七	三	一
					二九	七	三	一

二、年度内生産仔豚異動表

計	ホワイ	パイオレット	ひばり	ヒストン	山櫻	福壽	千鳥	
							アスターブライ	アスターブライ
三五	一	一	一	一	一	一	一	一
	昭和七年一月九日	昭和六年十二月二日	昭和六年十二月廿五日	昭和六年十二月廿五日	昭和六年九月六日	昭和六年七月十四日	昭和七年一月廿二日	昭和六年七月十二日
	妊娠中	昭和七年三月廿二日	昭和七年三月十六日	昭和七年三月十六日	昭和六年三月廿七日	不妊	昭和七年二月廿九日流産	昭和六年十一月三日
七三	一	一	一	一	一	一	一	一
七六	一	一	一	一	一	一	一	一
一五二	一	一	一	一	一	一	一	一
九	一	一	一	一	一	一	一	一

ヒストンロバ	ヒストンワンドラ	第二やまがら		福千		てふをかだ		やまがらをかだ	
		アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ	アスターブライ
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和六年三月廿八日	昭和七年三月廿二日	昭和六年九月十日	昭和六年二月十日	昭和六年八月十二日	昭和六年二月五日	昭和七年一月廿二日	昭和六年七月十二日	昭和六年一月十九日	昭和六年七月四日
昭和六年七月二十日	妊娠中	不妊	昭和六年六月四日	昭和六年十二月四日	昭和六年五月卅日	妊娠中	昭和六年十一月四日	昭和六年五月十五日	昭和六年十月廿六日
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一

郡市別	出頭数	牝		計	牝		計
		牝	下頭		牝	下頭	
足羽郡	三三	四	五	九	三三	二八	五一
吉田郡	一六	二	四	六	一六	一三	三九
坂井郡	二六	六	四	一〇	二六	二〇	五九
大野郡	二六	八	五	一三	二六	二〇	五九
今立郡	三三	六	四	一〇	三三	二六	六五
丹生郡	三〇	六	四	一〇	三〇	二二	七七
南條郡	三三	四	三	七	三三	二二	五〇
敦賀郡	二〇	六	四	一〇	二〇	一〇	五〇
三方郡	六	二	二	四	六	四	三三
遠敷郡	一四	一	一	二	一四	一〇	三三
大飯郡	一	一	一	二	一	一	三〇
福井市	二	一	一	二	二	一	五〇
計	三八	四六	三六	八二	三二〇〇	二二五〇〇	五三六〇〇

備考 拂下欄ニハ廢用拂下十一頭ヲ含ム
前年度繰越牝七頭ハ種豚ニ編入シ牝五頭ハ屠殺シテ加工ニ供用セリ

ホ、種豚 拂下表

種豚	出頭数	牝	下頭	計	牝	下頭	計
てふをかだ	二		一	一		四	二
福千	二		九	一一		一	一一
第二やまがら	二		九	一一		一	一一
レットヂエウエ	一		八	九		一	一〇
ヒントンロバ	一		二	三		一	四
ブライト	一		六	七		一	八
千鳥	一		三	四		一	五
山櫻	一		四	五		一	六
ヒストン	一		四	五		一	六
ひばり	一		四	五		一	六
パイオレット	一		五	六		一	七
計	一七	七七	八三	一六〇	四四	六七	二二七

最近五ヶ年間種豚拂下比較表

郡市別	昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		昭和六年度	
	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格
足羽郡	1	—	1	—	1	—	7	4,000	9	51,000
吉田郡	4	5,000	3	8,000	6	3,600	3	7,600	6	39,000
坂井郡	1	—	1	—	2	1,800	3	1,650	1	5,900
大野郡	1	—	2	1,600	1	—	1	—	1	9,500
今立郡	3	24,600	3	23,000	6	3,600	1	1,700	1	6,500
丹生郡	1	—	1	—	3	1,700	3	3,100	1	7,700
南條郡	1	—	1	—	1	—	7	5,300	7	5,000
敦賀郡	1	—	1	—	4	2,400	1	—	1	5,000
三方郡	1	—	2	1,300	1	600	7	4,900	4	3,100
遠敷郡	1	—	1	—	6	3,600	1	—	2	1,300
大飯郡	1	—	1	—	1	—	1	—	1	—
福井市	6	54,000	1	—	1	—	1	—	1	5,000

ト、仔豚發育成績表

母豚名	産次	生年月日	生		産		仔		豚	
			頭數	平均時一頭	十日目	二十日目	三十日目	四十日目	五十日目	上
ヘラルドボツビ	一	昭和六年四月廿一日	4	235	5	7	1	1	1	1
同	二	昭和六年十月廿一日	3	268	6	9	1	1	1	1
やまがらをかだ	五	昭和六年五月二日	5	292	7	11	1	1	1	1
同	六	昭和六年十月廿六日	7	260	5	8	1	1	1	1
てふをかだ	四	昭和六年五月十日	4	230	6	9	1	1	1	1
同	五	昭和六年一月七日	4	234	5	8	1	1	1	1
福千	五	昭和六年五月十五日	6	255	8	11	1	1	1	1
同	六	昭和六年十一月四日	3	283	7	10	1	1	1	1
第二やまがら	四	昭和六年五月三十日	3	269	5	8	1	1	1	1
同	五	昭和六年十二月四日	8	237	5	9	1	1	1	1
計			36	268	48	75	7	7	7	7

種	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	計
レットヂエウエ	七	六	八	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
ヒストンロバー	八	七	六	二	二	七	六	五	一	一	一	一	一	一	一	八
千鳥	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山櫻	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ヒストン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ひばり	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ハイオレット	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三、鶏

本縣ハ單冠白色レグホーン種名古屋種三河種ヲ以テ最モ適當ト認メ之ガ飼養ヲ獎勵シ益々普及ニ努メタル爲鶏種モ漸次統一セラレ飼養羽數亦増加セリ
 殊ニ昭和五年度ヨリ縣内十六ヶ所ニ委託種禽育成所ヲ設置シ優良種禽種卵ノ配付ヲ行ハシメ併セテ地方ニ於ケル指導者タラシメタルヲ以テ近時技術ノ進歩見ルヘキモノアリ産卵能力亦著シク向上セリ

イ、種鶏現在表 (年度未現在)

區分	大正十四年		昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		合計
	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	
單冠白色レグホーン種	一	一	三	一	二	一	二	一	三	四	三	六	一	一	一三
名古屋種	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	四	二	二	二七
三河種	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三
計	一	一	三	一	二	一	二	一	三	四	三	六	一	一	二七

ロ、種鶏拂下表

區分	單冠白色レグホーン種		名古屋種		三河種		合計
	件數	羽數	件數	羽數	件數	羽數	
足羽郡	七	七〇	一	一	一	一	七
吉田郡	一七	三四八	二	九	一	二	二〇
坂井郡	一五	二七五	一	一〇	一	一	一六
大野郡	六	三七〇	一	一〇	二	四	八
今立郡	一三	五九四	一	一	一	二〇	一四
丹生郡	四	一三五	一	一	一	一	四
計	七〇	一、〇七〇	六	二一	六	二五	八二

計	伴田第三號器	伴田第二號器	伴田第一號器	長友第三號器
三三	六	四	三	六
九、四七二	一、一三三	六五三	六二〇	三、〇三三
一、八六七	一九八	一〇四	一四八	六六四
五六〇	五六	五六	二九	二二二
一〇	一	一	二	二
一、五三二	九五	九六	六三	六九六
五、五〇三	七三三	三九七	三七八	一、四四九
七二、六七	八三、五七	七二、三二	八〇、〇八	六二、四二

ト、産卵調査表

種類	區分	種ノホーグレ色白冠單			
		産卵數	延卵數	産卵率	延卵率
古名	四月	三六九	一、〇八八	一七、九五	五、四三五
	五月	三二四	一、〇四六	一九、三三	五、四九二
	六月	二三三	七一九	一六、八九	四、七七八
	七月	二四九	五二七	一六、四二	三、九七八
	八月	一四七	五七	一三、八〇	三、八六五
	九月	一七九	五〇	九、五一	三、六九三
	十月	一五二	五七	四、七〇	三、八三〇
	十一月	一〇九	四九三	三、三六	四、一二二
	十二月	二二	八三〇	六、二四	五、五三六
	一月	二七五	九四〇	九、九七	五、五三六
	二月	四三	一、七六一	九、七二	三、九五六
	三月	五〇八	一、二八	一五、〇四	六、九六〇
計		三、一六八	九、五〇〇	三、一六八	

チ、最近五ヶ年間産卵成績比較表

昭和二年度	區分	種	計				種河三				種屋				
			産卵數	延卵數	産卵率	延卵率	産卵數	延卵數	産卵率	延卵率	産卵數	延卵數	産卵率	延卵率	
昭和二年度	區分	種	一、六、六八	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六
			一、七、三〇	一、七、一八	一、三、三三	一、五、六六	一、二、九二	九、四七	五、二三	三、八七	六、三四	九、四二	一、三、八八	一、六、五四	一、四、四六

昭和三年度	一八三、二九	一三九、六七	五ヶ月平均	一六九、一九
昭和四年度	一九九、〇六	一三九、六七	九三、九三	一八四、四六
昭和五年度	一六七、八〇	一〇九、七三	一五、八七	一五六、八四
昭和六年度	一五〇、六四	二二〇、八五	二八、八〇	一四〇、四六

リ、育雛成績ノ概要

年度内ノ孵化羽數ハ五千五百三羽中成育ノ見込ナキモノ五百六十羽ヲ淘汰セル四九百四十三羽ニ前年度ノ繰越雛一千五百三十四羽ヲ加ヘテ六千四百七十七羽ヲ育雛シ内本年度ノ配付雛二千四百三十四羽、當場候補種鶏百五十三羽各委託種禽育成所貸付ノ原種鶏トナシタルモノ四十七羽更ニ拔雄及發育悪シク資質良ナラザルタメニ廢鶏處分セルモノ四百四十九羽ニシテ八百八十五羽ハ次年度へ繰越シ他ハ斃死セリ

育雛ハ専ラ人工ニ依リタルモノニシテ之ニ使用セシ仮母器ハ煉炭温源ノ五百羽入二臺三百羽入二臺二百羽入一臺計五臺ノ傘形育雛器ナリ、育雛時季ニ依リテ給温日數ニハ長短アリタレドモ餌付後略四十日間ハコレニ依リテ給温育ヲ行ヒ其ノ後ハ無給温ニテ育雛セリ

給餌ハ後章ニ示セル餌料ノ配合表ニ依リ主トシテ粉餌ヲ給與シタレドモ舍内ノ狭小ト密飼ノタメ運動不足等ニ陥ルガ如キ弊アルヲ慮リテ舍内ニ敷料ヲ施シテ保温排濕ニ努ムルト同時ニ時々敷料中或ハ運動場ニ撒餌ヲナシ雛群ヲシテ佇立スルコトナク自由ニ啄食セシメ自ラ運動ヲ促進セシメ食物食趾癖ヲ避ケ以テ發育ノ完全ヲ圖レリ、給水ハ常ニ清水ヲ施シ特ニ青菜類ヲ多給セリ、尙骨粉貝殼等ヲ適當ニ給與シテ無機分ヲ補給セル外木炭末ヲ粉餌中ニ混與シテ雛体消化器系統ノ健康活成ニ努メタリ

舍外運動ハ餌付後一週間ヨリ温暖ノ日ヲ選ビテ行ヒ漸次運動時間ヲ延長シテ外氣ニ馴化シ寒暑ニ對スル抵抗

力ヲ増サシムル如ク管理セリ

又、委託種禽育成所

縣下ノ養鶏ハ近年著シク進展セント雖尙他縣ニ比シ遜色アリ之ガ急進的發達ヲ圖ルノ一助トシテ昭和五年度以來縣内十六ヶ所ニ委託種禽育成所ヲ設置シ其ノ原種鶏單冠白色レグホーン種二雄十八雌計二十羽宛ヲ當種畜場ヨリ貸付シ嚴密ナル指導監督ノ下ニ種禽種卵ノ配付ヲ行ハシムルト共ニ地方ニ於ケル指導者タラシメ以テ斯業ノ進展向上ニ盡サシメタリ

委託種禽育成所所在地及管理者氏名並ニ其ノ成績左表ノ如シ

名稱	位置	管理者氏名
福井縣足羽委託種禽育成所	足羽郡酒生村荒木新保	五十嵐嘉瑞
福井縣吉田委託種禽育成所	吉田郡東藤島村上中	増田鑑堯
福井縣坂井第一委託種禽育成所	坂井郡芦原村田中々	土橋惣太郎
福井縣坂井第二委託種禽育成所	坂井郡細呂木村指中	伊藤藤豐
福井縣大野第一委託種禽育成所	大野郡猪ノ瀬村片瀬	平田照
福井縣大野第二委託種禽育成所	大野郡下庄村中野	鈴木庄太郎
福井縣今立委託種禽育成所	今立郡新横江村鯖江	今立郡農會

福井縣丹生第一委託種禽育成所	丹生郡吉野村家久	西岡勇
福井縣丹生第二委託種禽育成所	丹生郡織田村織田	佐々木甚之助
福井縣南條委託種禽育成所	南條郡南日野村西大道	加藤八郎
福井縣敦賀委託種禽育成所	敦賀郡敦賀町大黒	小倉音吉
福井縣三方委託種禽育成所	三方郡八村三方	榎本伊三郎
福井縣遠敷第一委託種禽育成所	遠敷郡瓜生村下田中	岡本勘三郎
福井縣遠敷第二委託種禽育成所	遠敷郡雲濱村西津	宮前正介
福井縣大飯第一委託種禽育成所	大飯郡加斗村本所	新崎辰之助
福井縣大飯第二委託種禽育成所	大飯郡高濱町若宮	一瀬勝太郎

一、委託種禽育成所事業成績

區分	原種		種配		種數
	延羽數	總產卵數	產卵率	種數	
福井縣足羽委託種禽育成所	五、五五三	二、七四	三九、二	一四八	一七七
福井縣吉田委託種禽育成所	四、四五五	一、七〇二	三八、二	一七五	四三

福井縣坂井第一委託種禽育成所	四、八九八	二、三五九	四八、二	五一	四六
福井縣坂井第二委託種禽育成所	四、六四五	一、五四〇	三三、二	—	—
福井縣大野第一委託種禽育成所	六、二五五	二、八八六	四六、一	四八六	二〇六
福井縣大野第二委託種禽育成所	五、一五五	二、七七八	五三、一	四六七	三七
福井縣今立委託種禽育成所	四、三五六	一、六五四	三八、〇	—	九三
福井縣丹生第一委託種禽育成所	六、五七七	三、〇八六	四七、三	五九一	八八
福井縣丹生第二委託種禽育成所	六、三〇〇	三、〇一一	四九、一	一〇七	三七
福井縣南條委託種禽育成所	五、六七三	二、四九七	四四、〇	六	—
福井縣敦賀委託種禽育成所	五、二六	二、〇一一	三九、二	三〇五	二六
福井縣三方委託種禽育成所	四、七三二	一、八二二	三八、四	一六三	二七一
福井縣遠敷第一委託種禽育成所	五、一四六	二、四九九	四八、六	六四五	二三八
福井縣遠敷第二委託種禽育成所	五、五八一	二、九二七	五三、四	七八	一六
福井縣大飯第一委託種禽育成所	五、二七五	二、〇九七	三九、八	二四三	五二九
福井縣大飯第二委託種禽育成所	四、八〇四	二、二一〇	四四、一	三六〇	二〇〇

計	八四、三九〇	三七、一五三	四四、〇三	四、九二五	二、七六七
---	--------	--------	-------	-------	-------

第三章 飼養管理

一、飼 養

飼料ハ概ネ次記飼料配合日量表ニヨリ給與セシモ經濟的ニ且ツ一般農家ニ於テ用フルニ便ナルモノヲ基準トシテ配合セリ而シテ畜牛ニ在リテハ榮養沁乳妊否等ヲ考慮シ比較的粗飼料ヲ用ヒテ消化器關ノ發育保全ヲ促スコトニ留意セリ濃厚飼料ハ乾燥ノ儘日量ヲ二回分ニ與ヘ尙季節榮養狀態泌乳量及發育中ノモノニ在リテハ其ノ程度ニヨリ飼料ノ増減ヲ行ヒ組飼料ハ主トシテ當場ノ生産ノ生牧草「エンシレージ」蕪菁青刈大豆野干草等ニシテ何レモ品質良好ナルモノヲ給與シタリ

豚ハ健否妊娠發育ノ程度ニヨリ常ニ飼料ノ配合ヲ加減シ夏季ハ水、冬ハ微温湯ヲ以テ攪拌粥狀トナシ日量ヲ三回ニ分與セリ

仔豚ニ在リテハ母親ニ付テ哺乳セシムルノ外生後十五六日頃ヨリ渣乳ヲ給シ漸次穀、米糠等ヲ混與シテ飼養ニ馴レシメ五六十日ニ至リテ斷乳ヲナス

鶏ハ季節發育等ヲ顧慮シ常ニ飼料ノ配合ニ注意シ天賦ノ能力發揮ニ努メタリ

給與飼料ハ練餌粉餌粒餌ノ型ニ於テシ粉餌ハ常ニ自動餌器ニ入レテ慾スルガ儘トナシ粒餌ハ主トシテ時餌トシテ給與シタレドモ日中ト雖一、二回少許ヲ撥床ニ撒餌シテ運動ヲ促スニ用ヒタリ

練餌ハ粉餌中ニ青菜ヲ混加セルモノニシテ朝一回之ヲ給與セリ

給水ハ畜牛ニ在リテハ食後之ヲ行ヒ尙運動場ニハ水槽ヲ設ケ毎日新鮮ナル冷水ヲ滿タシ運動中自由ニ飲マシメタリ

家畜家禽ニ於ケル給與飼料ノ例ヲ擧ケレバ左ノ如シ

イ、畜牛飼料給與量及配合例

區 分	濃厚飼料日量	穀 厚 飼 料 配 合				食 鹽	生 草 (干草)
		大麥	挽割	玉蜀黍	大豆粕		
ホルスタイン種 牛	七斤	三	三	一	一	二	四〇斤 (五)
ホルスタイン種 牝	七	四	二	一	二	一	四〇 (五)
ホルスタイン種 牛	七	四	三	一	二	二	三〇 (四)
候補種 牛	四	三	二	一	二	二	二〇 (二)
ホルスタイン種 牛	二	三	三	一	一	二	二〇 (二)
改 良 種 牛	四	二	二	一	一	三	四〇 (五)
改 良 種 牛	四	三	二	一	一	三	四〇 (五)
改 良 種 牛	二	二	二	一	一	三	二〇 (二)

備考 一、濃厚飼料日量ハ本表ヲ基準トシ尙各個体ノ情況ニヨリ之ヲ増減ス

二、本表中生草、干草トアルハ春夏秋冬ノ生草期ニハ生草ヲ給與シ冬季生草ナキ期間ハ生草ノ代リニ干草ヲ給與スル量ヲ示セリ

三、冬季間飼料トシテ干草ノ外蕪菁「エンシレージ」青刈大豆等ヲ給與ス

口、犢ノ育成

當場生産ノ内「ホルスタイン」種ハ特別ノ事情ナキ限り凡テ人工哺乳ヲ行フコトトナシ其ノ量ハ牝ハ生体量

ノ七分ノ一牝ハ八分ノ一トシ尙發育狀態ニヨリ幾分斟酌スルコト、セリ而シテ産後四週間目ヨリ哺乳ノ傍ヲ濃厚飼料ヲ給シ成育ト共ニ其量ヲ増加セリ、而シテ生後六ヶ月生体量貳百斤内外ニ於テ斷乳ヲ行ヒ濃厚飼料ヲ給與セリ改良和種ニアリテハ人工哺乳ヲ行ハス常ニ母牛ニ付テ隨意ニ哺乳セシメ生後一ヶ月ヨリ少量ノ濃厚飼料ト粗飼料ヲ給與シ逐次増量ス而シテ生後六ヶ月ヲ以テ斷乳セリ

ハ、種豚飼料配合例

區分	穀	米	糠	大豆粕	醬油粕	魚粉	生草
牝豚	九三〇	七〇〇	七〇〇	二〇〇	一、二〇〇	三五	七、五〇〇
牝豚	一、三〇〇	七五〇	七五〇	二五〇	一、二〇〇	三五	六、〇〇〇
仔豚	一、三〇〇	九五〇	九五〇	五五〇	一、二〇〇	五五	六、〇〇〇
仔豚	七五〇	三七五	三七五	一三〇	三七五	二〇	二、〇〇〇

備考 冬季生草ニ代フルニ蕪菁ヲ以テス

木炭末、骨粉等適宜給與ノコト

ニ、種鶏飼料配合例

區分	餌			粉		餌			青葉		
	玉蜀黍	小麥	高粱	粳	枇	穀	玉蜀黍	大豆粕		米糠	魚粉
單冠	一七	二〇	二二	九	一四	一〇	一〇	五	一〇	一四	七〇
白色レグホーン種	一七	二〇	二二	九	一四	一〇	一〇	五	一〇	一四	七〇

名古屋種	三河種
一七	一七
二〇	二〇
一三	一三
二二	二二
一五	一五
一〇	一〇
一〇	一〇
一五	一五
七〇	七〇

備考 貝殻骨粉花崗岩粒ハ適當量ヲ給與セリ

ホ、育雛飼料配合例 (重量比)

區分	餌付後五日迄	孵化後一ヶ月迄	孵化後二ヶ月迄	孵化後三ヶ月迄
小	三〇	二〇	一〇	一〇
粟	二五	一六	一〇	五
玉蜀黍	一五	二〇	二〇	二五
粳	一	一	六	六
小	三〇	二〇	一〇	一〇
穀	一	一〇	一〇	一〇
米	一	一	一〇	一〇
魚粉	一	一四	一四	一四
計	100	100	100	100

備考 青葉骨粉貝殼木炭未等適宜給與ノコト
 へ、飼料ノ購買及消費

品目	購買及消費量	購入金額
穀	一八、三〇〇〇 <small>町</small>	八三五四 <small>円</small> 五〇
食鹽	五、〇〇〇〇	三〇七五〇
米糠	一一、六五六二五	三五三四一〇
大麥挽割	六、二四七五〇	四五七三三〇
粳	六、三六三七五	四八七〇
玄粟	六、五六六二五	五三九四〇
小麥	六、二四四五〇	四三四一〇
貝殼	一、七二二五	二二一〇〇
骨粉	三、〇二二五	三五五七〇
葉	一四、一五〇〇 <small>束</small>	一一七九四〇
豆腐粕	四、五〇〇〇	九〇〇

醬油粕	三、四三七五〇	二八七六〇
花崗岩粒	五六三五〇〇	一六五〇〇
肝油	七、二五六	三五六〇〇
野生草	六四、七四五〇	一一〇八六〇
乾草	一三、一九二五〇	三六六一〇
雜魚粉	一五〇七五〇	一三〇六〇
鱈魚粉	五六二五〇〇	四九五〇〇
玉蜀黍	七、六七五八七五	四四〇九八〇
高粱	一、八〇九三七五	八四五五〇
屑米	二、七四六二二五	二二四四五〇
大豆粕	五、四〇八二五〇	三〇八〇九〇
大豆	二、二六四七〇	一四七五〇
鯨粕	二、四七八〇〇〇	二八九五四〇
計		四、三〇七九〇

二、管理

動物ノ取扱ニハ常ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ以テ天賦ノ能力ヲ發揮セシムルコトニ努メタリ即チ畜牛ニ在リテハ日々体ノ梳拭ヲ嚴重ニ行ヒ汚染甚シキ部分ハ水或ハ微温湯ヲ以テ洗滌シ運動ハ季節及榮養状態並分婉前後等ニヨリ多少斟酌ヲ加ヘタルモ種牡牛ニ在リテハ牽運動或ハ繫索運動ヲ行ハシメ牝牛ニ在リテハ日々運動場ニ出シテ少クトモ三時間以上ノ逍遙運動ヲ課セリ、豚及鶏ニ在リテハ雨雪烈シカラザル限リハ常ニ舍内ト運動場トノ間隔ヲ開放シテ運動セシム、種鶏ニ在リテハ冬季舍内ニ相當切藁ヲ敷キテ保温乾燥ヲ圖ルト共ニ揆床ヲ作リテ搔撥運動ヲナサシメ付屬運動場ハ時々打起シ天地ヲ反轉シテ石灰乳ヲ撒布スル外新鮮ナル表土ノ更新ヲ行ヒタリ、舍内ノ清潔及空氣ノ交流ニ就テハ常ニ注意ヲ拂ヒ年二回ノ洗滌及消毒ヲ勵行シ以テ動物ノ健康保全ニ努メタリ、畜牛及豚ニハ敷藁ヲ給シ汚染甚シキ部分ハ日々交換補給シ換氣調節ハ夏ニ冷涼ニ冬ハ温暖ニ保タシメ空氣ノ交流ヲ良好ナラシメタルモ愛護過度ニ失シテ體質ヲ羸弱ナラシメザル様注意シ風雲寒ク又炎暑ノ際ト雖可成舍外ニ出シテ個体ノ抵抗力ヲ旺盛ナラシムル様努メタリ、疾病ニ對シテハ特別ナル注意ヲ拂ヒ努メテ未然ニ防遏スルノ策ヲ講セリ、畜牛ノ護蹄ニ關シテハ常ニ留意シ年二回削蹄ヲ行ヒ以テ肢蹄ノ保全ヲ圖レリ

三、衛生

イ、畜牛衛生

畜牛衛生ニ就テハ細心ノ注意ヲ拂ヒ牛舍ハ毎日朝夕二回ノ掃除ト定期ノ大消毒法實施トニ依リ常ニ清潔ヲ保チ又適度ノ換氣ト温度ノ調節ヲ計ルト共ニ意ヲ個体ノ健康及能力發揮ニ注キ運動ヲ勵行シ榮養ヲ保タシメ其ノ異常ト認ムルモノハ早期的處置ニ依リ衛生事故ノ防止ニ努メタリ、畜牛結核病検査ハツベルクリンノ應用ニヨリ之ヲ行ヒ以テ畜衛生上遺憾ナキヲ期セリ

年度内發病牛左ノ如シ

種類及名號	性	生年月	發病年月	病名	施療日數	轉歸
ホルスタイン種 スシ一三世號	牝	昭和三年七月	昭和六年六月二十四日	婉隨停滯	二三日	快
ホルスタイン種 スシ一四世號	牝	昭和五年三月	昭和六年七月十一日	胃腸加答兒	五日	快
ホルスタイン種 フイーマン六世號	牝	昭和三年十二月	昭和六年十月二十九日	胃腸加答兒	八日	快
ホルスタイン種 フイーマン種	牝	大正十二年四月	昭和七年一月二十日	產褥熱	一六日	快

第四章 乳肉加工

一、乳加工

生産牛乳ノ加工ハ「バター」製造ヲ主トシ其ノ他種々加工ニ關シ研究ヲ行ヒタリ
今「バター」製造ニ關シテ成績ヲ示セバ次ノ如シ

月別	加工牛乳量	生産「バター」量	「バター」一盞生産ニ要スル牛乳量
四月	四〇五、四〇〇	一七、四九〇	二三、一七九
五月	三三七、〇八〇	一四、六二〇	二六、四七六
六月	二八一、一〇〇	一〇、三八〇	二七、〇八一
七月	二九六、四五〇	一〇、四〇〇	二八、五〇五

八	月			
九	月	三二、八〇〇	五、七五五	三八、五五五
十	月	二八、八二〇	九、三〇〇	三〇、三二〇
十	一	三六、二〇〇	一九、二四五	一九、五五〇
十	二	六九、九〇〇	二五、三〇〇	二七、六六四
一	月	七五、三〇〇	二七、七〇〇	二七、三三三
二	月	七七、三〇〇	二七、八〇〇	二六、一六二
三	月	一〇五、一〇〇	三七、四〇〇	二八、一三三
計		五四八、五四〇	二〇五、四一〇	二六、七二八

二、肉加工

本年度ニ於テ肉加工ニ供用セシハ當場生産仔豚中種牡トナス見込ナキモノヲ去勢肥育シタルモノ五頭種豚中老齡ノ爲廢用ノ牝一頭牡一頭計七頭ニシテ製品及數量左ノ如シ

記

- 一、腸 詰 一〇〇、一二五瓦
- 一、搥豚其ノ他 一三六、一二五
- 一、ラード 三九、八二五

第五章 試驗事項

一、人工授精試驗

牝牛ニシテ若齡ニモ拘ラズ外觀上體質其ノ他何等認ムヘキ變狀ナキモ妊娠不能ニ陥リ廢牛トナスノ止ムナキニ至リ尠ナカラザル損失ヲ蒙リ尙遠隔ノ地ヨリ種付希望者アルモ牝牛ノ輸送ニ多大ノ經費ヲ要スルヲ以テ優秀ノ牝牛ヲ有シナガラ優秀種牝牛ニ交配スルコト能ハサルハ畜牛改良上甚ダ遺憾トスルトコロナレバ之ガ試驗研究ハ各所ニ於テ行ハレツツアリ當場ニ於テモ毎年之ガ試驗研究ヲ重テ既ニ奏功セルモノ數頭ニ及ベドモ供試牛出願數ノ僅少ナルト術後ノ結果明カナラザル中ニ轉賣スル等管理者ニ未ダ理解少ナキ爲成績詳カナラザルモノアルハ遺憾トス昭和五年度ニ於テ當場繁養ノ牝牛スシ―三世號ニ本試驗ヲ施行ノ結果受胎シ昭和六年六月二十三日牡犢分娩セリ

本年度供試中(ホルスタイン種、ホームステットダビンソン號昭和四年八月生)ハ數頭ノ種牝牛ニ十數回ノ種付ヲ行ヘドモ不受胎ノ爲來場施術ヲ乞ヒシヲ以テ腔内ヲ檢セシニ子宮頸硬結セルニヨリ八月七日手術ノ上人工授精セルモ其後成績判明セザル内ニ轉賣セシ爲結果ヲ知ルヲ得ザリキ

第六章 耕作

一、農場經營ノ概況

本年度農場經營ノ概況ハ既定方針ニ基キ飼料作物ノ栽培ヲ行ヒ以テ粗飼料ノ自給ヲ圖レリ、飼料作物ノ作付延反別ハ二町九反五畝歩ニシテ外ニ一町一反一畝二十七歩ノ牧草栽培地ヲ有スレドモ當場飼養ノ家畜禽數ニ比シテ牧草地ノ面積狭少ナルガ爲メ之ガ經營ニ就キテハ專ラ合理的農業經營ノ根本タル勞費及金肥ノ節約ニ一層留意シ以テ收穫ノ最大ヲ圖レリ即チ農場作業勞務ニハ專ラ常備農手一名ヲシテ之ニ當ラシメ播種期並

ニ收穫時期ノ如キ短時日ニ多數ノ勞力ヲ要スル場合ニハ臨時人夫ヲ僱役シテ作業ノ進捗ヲ圖リ又耕起碎土等ニハ當場繁養ノ改良和種牛ヲ使役シ以テ作業ノ能率増進ト勞力ノ節減ヲ圖リ併セテ畜力利用ノ範ヲ示セリ、肥料ハ全部當場生産ノ堆肥ヲ用ヒタリト雖各種作物ノ發育狀況ヲ參酌シ各種家畜家禽ノ糞尿ヲ混和シテ堆肥トナシタルモノヲ施用シ或ハ單用スル等施肥期ニ依リテ各種肥料ノ特効性ヲ利用シ少許ノ金肥ヲ施用スルノミニシテ努メテ生産費ノ經減ヲ圖リ集約的經營法ニ據リテ有畜農業ノ範ヲ示セリ

二、飼料作物栽培ノ概況

飼料作物ハ粗飼料ノ自給自足及栽培試験ノ目的ヲ以テ栽培セリト雖耕作牧草地狹少ナルガ故ニ耕作牧草ノミニテハ常ニ不足ヲ告ゲ野草ヲ以テ補足スルノ狀況ニシテ本年モ野乾草三千五百貫ヲ購入セリ
當場栽培牧草ノ主ナル種類ハオーチャードグラス、レツトクロバ、パールミレット等ニシテ計一町一反一畝二十七歩ノ面積ヲ有スルモ其ノ中播種後數ヶ年ヲ經過シ荒廢甚シキ區劃ハ十月下旬更新セル結果多少ノ減收ヲ見タルモ一般ニ成育比較的良好ナリ

栽培作物トシテ表作ハ青刈燕麥エンシレージ用玉蜀黍(ホワイトデントコーン)燕麥、早生大豆、馬鈴薯、龍舌菜及少許ノ西瓜、外ニ試験區トシテ青刈大豆ノ比較栽培等ヲ行ヘリ、裏作トシテハ燕青(瑞典種、聖護院種、木田種)育雜用薯苔、聖護院大根等ヲ栽培セリ而シテ各種作物ノ發育及收量ハ概シテ良好ナリキ

イ、飼料作物栽培成績表

區分	作付反別	播種期	反當播種量	反當施肥量	收穫期	反當收量	總收量
燕麥	二反	十月二十五日	八條播升	牛尿 二〇〇荷	七月三日	一、五〇〇	三、〇〇〇
青刈麥	一町二反	隨時	八條播升	牛尿 一五〇荷	隨時	一、三〇〇	一、三〇〇

エンシレージ用玉蜀黍	二反	四月十二日	三點播升	堆肥 七〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自月七廿八日 至七月卅一日	一、二五〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
馬鈴薯	一反	三月二十日	移三十貫 三點播升	堆肥 五〇〇貫 牛尿 七〇〇荷	六月廿八日	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
龍舌菜	五畝	四月二十日	三點播升	堆肥 六〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	隨時	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
早生大豆	二反	四月二十八日	五點播升	堆肥 一〇〇貫	七月十六日 七月廿二日	一、三〇〇	二、六〇〇
瑞典燕青	一反	八月二十五日	六點播升	堆肥 五〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	十月以降	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
聖護院青	二反	八月二十七日 八月二十八日	六點播升	同	同	六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
聖護院根	四反	八月二十四日 八月二十六日 八月二十七日	一升五合 一升五合 播	同	同	二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇
木田燕青	二反	八月二十九日 八月三十日	六點播升	同	同	八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
青刈大豆	五畝	四月十一日	五點播升	堆肥 六〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	八月六日	六〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
人參	五畝	六月十八日	三點播升	堆肥 六〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	隨時	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇

備考

- 一、育雜用薯苔ハ翌春使用スル爲栽培セルモノニシテ本表ニハ豫想收量ヲ記載セリ
- 一、燕青及大根ノ收量ハ葉付ノ貫數ヲ示セリ
- 一、青刈燕麥及龍舌菜ハ少量宛又ハ長期間ニ收穫スル爲收穫期ヲ隨時トセリ

ロ、牧草收穫表

牧草名	面積	刈		反當	總收量
		一	二		
オーチャード	六反	三、五〇〇	六、三〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
グラツス	二反一畝	三、二〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、九五〇
クロツバ	二十七畝	三、二〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇
ミレツト	二反	四、〇〇〇	二、四〇〇	一、五〇〇	二、九〇〇
計	一町一畝 二七畝	一、一七二、四〇〇	一、七〇四、〇〇〇	一、四一四、〇〇〇	三、九一〇、四〇〇

備考 一、牧草ハ總テ條播ヲ行ヘリ

一、牧草地中末更新地二反六畝ハ十月下旬播種セリ
一、パールミレツトハ二番刈ヲ以テエンシレジ原料ニ供用セリ

八、農場作業使用人員月別表

區分	使用人員		摘	要
	常農夫	臨時男女		
七月	二六、〇	二六、〇	三四、〇	馬鈴薯收穫、燕麥收穫、牧草地中耕施肥人參除草、施肥エンシレジ調整、蕪菁播種、整理及施肥
六月	二九、〇	二〇、〇	一四、〇	パールミレツト除草及施肥、龍舌菜除草及移植、人參播種、カキハ大根除草、玉蜀黍土寄牧草地中耕施肥
五月	三〇、〇	一〇、〇	三〇、五	肥青刈大豆除草、青刈燕麥中耕及施肥
四月	二九、〇	一〇、五	三、五	蕪菁中耕、玉蜀黍播種、龍舌菜播種、パールミレツト播種、牧草中耕及施肥、馬鈴薯移植、青刈大豆播種
三月	二七、五	一〇、〇	三五、〇	堆肥積替作業、大豆收穫牧草地中耕施肥
二月	三〇、五	一一、五	二八、五	蕪菁及大根間引施肥、クローバ播種、パールミレツト栽培
一月	二七、五	三三、五	六、〇	地整理人參除草施肥、牧草施肥
十二月	二七、五	三三、五	六、〇	肥蕪菁大根收穫
十一月	二七、五	三三、五	六、〇	燕麥播種準備及播種、人參收穫蕪菁大根除草施肥、牧草施肥
十月	二七、五	三三、五	六、〇	蕪菁大根收穫堆肥積替運搬作業、龍舌菜播種人參收穫
九月	二七、五	三三、五	六、〇	蕪菁大根收穫
八月	二九、五	七三、〇	一九、〇	パールミレツト中耕施肥蕪菁及大根播種人參中耕施肥玉蜀黍根刈取
計	二九五、〇	一八八、〇	一八四、五	採種用燕麥手入、燕麥施肥、パールミレツト播種準備、玉蜀黍播種準備、耕道修理

種別	反當所要人員		賃金	備考
	男	女		
青刈燕麥	七、五	五、五	一一、九三五	昭和四年度 昭和五年度 昭和六年度
計	二九五、〇	一八八、〇	一八四、五	

備考 一、一月二月ノ農閑期ニハ常農夫ハ牛舎ニテ畜牛飼養管理ノ助成ヲ行フ

二、飼料作物栽培努力調査
飼料作物栽培ハ最モ集約的操作ニ依リ最大ノ収獲ヲ得ヘク毎年之ガ作業能力ノ調査ヲ行ヒ以テ生産費ノ節減ニ留意セリ、今各種飼料作物ノ栽培ニ要セシ反當所要人員並勞賃ニ對スル單價ヲ示セバ次ノ如シ

種別	反當所要人員		賃金	備考
	男	女		
青刈燕麥	七、五	五、五	一一、九三五	昭和四年度 昭和五年度 昭和六年度
計	二九五、〇	一八八、〇	一八四、五	

燕麥	五、五	一〇、〇	一一、三五	青刈十貫ニ付	一石ニ付	八、二六
玉蜀黍	二一、〇	二〇、〇	二五、三五〇	青刈十貫ニ付 〇、二九九	青刈十貫ニ付 〇、二四二	〇、一〇二
馬鈴薯	五、〇	八、〇	一〇、五五〇	顆物十貫ニ付 〇、〇四一	顆物十貫ニ付 〇、一九三	〇、二二一
龍舍菜	三、〇	三、〇	五、二五〇	搔葉十貫ニ付 〇、一〇二	搔葉十貫ニ付 〇、〇九六	〇、一〇五
聖護院	九、五	六、〇	一四、五二五	葉付十貫ニ付 〇、〇八三	葉付十貫ニ付 〇、〇七二	〇、一〇五
瑞典蕪菁	二一、〇	八、〇	一八、六〇〇	葉付十貫ニ付	葉付十貫ニ付	〇、一五五
木田蕪菁	一一、〇	七、五	一七、七二五	葉付十貫ニ付 〇、一八三	葉付十貫ニ付 〇、一八五	〇、二二一
人參	八、〇	五、〇	一一、一〇〇	葉付十貫ニ付	十貫ニ付	〇、四〇六
早生大豆	五、〇	六、〇	九、三五〇	葉付十貫ニ付	一石ニ付	六、四三三
青刈大豆	四、〇	四、〇	七、〇〇〇	青刈十貫ニ付 〇、〇三三	青刈十貫ニ付 〇、一六六	〇、一〇六
青刈大豆	三、〇	二、〇	四、六五〇	搔葉十貫ニ付 〇、一七〇	搔葉十貫ニ付 〇、二二七	〇、〇九三

備考 備人賃金ハ男一日一人ニ付金壹圓拾五錢女一日一人ニ付金六拾錢ノ割ヲ以テ計算セリ

ホ、青刈大豆栽培比較調査

從來當場ニ於テ青刈大豆ヲ栽培セシモ本年ハ特ニ各農事試驗場生産ノ青刈大豆種子ニテ比較栽培ヲ行ヒシニ其ノ概況及成績左ノ如シ

一、試作物種

- 早生大豆 福井縣立農事試驗場生産
- 茶千石九號 福岡縣立農事試驗場生産
- 茶千石十二號 同
- 茶千石八十一號 同
- 晚生大豆 當場生産

一、耕作ノ梗概

四月十一日
畦間一尺五寸株間一尺ノ点播トナシ一株ニ付三粒宛播種
點播セシ上ニ藪灰三株ニ付一握宛施用

一、調査事項

- イ、試作地ハ微酸性ノ砂質壤土ニシテ氣候ハ概シテ順調ナリ
- ロ、耕種及肥培法ノ梗概

五升点播
反當播種量
木藪灰五貫
反當施肥量

ハ、生育狀況調査

區分	高	サ	葉數	分枝數	重量
早生大豆	五、〇〇 <small>尺</small>	五、〇〇 <small>尺</small>	一四八 <small>枚</small>	七 <small>本</small>	五八 <small>g</small>
茶千石九號	五、三〇	五、三〇	二四五	二	七六

附 録

區分	反當生草量	反當乾草量	生草ニ對スル生産割合
茶千石十二號	五、一〇	二四〇	二七
茶千石八十一號	五、五〇	二八〇	八一
晚生大豆	五、五〇	二八五	八六
早生大豆	四三〇、〇〇〇 ^實	九一、二三〇	〇、二二三 ^實
茶千石九號	五四六、四〇〇	一〇九、八七〇	〇、二〇一
茶千石十二號	四九五、四〇〇	一一三、八五〇	〇、二〇七
茶千石八十一號	五八五、八〇〇	一一八、九三〇	〇、二〇三
晚生大豆	六二七、五〇〇	一二六、三八〇	〇、二〇一

備考 本調査ハ坪刈一本平均ノ數字ヲ示セリ

二、收穫期 八月六日
ホ、反當生草及乾燥量

第七章 指導獎勵

一、質疑應答講習講話

文書ニ依ル質疑應答ハ數十件ニ過キザリシモ參觀ト質疑トヲ兼ネテ來場セルモノ多數ニシテ總テ懇切ニ實地ニ就キ指導及回答ヲ與ヘタリ講習講話及實地指導ハ縣下十一郡ニ亘リ百四十一日九十九回ニ及ベリ

附 録

茶千石十二號	五、一〇	二四〇	二	六七
茶千石八十一號	五、五〇	二八〇	一三	八二
晩生大豆	五、五〇	二八五	二	八六

備考 本調査ハ坪刈一本平均ノ數字ヲ示セリ

二、收穫期 八月六日

本、反當生草及乾燥量

區分	反當生草量	反當乾草量	生草ニ對スル乾草生産割合
早生大豆	四三〇、〇〇〇	九一、二三〇	〇、二二三
茶千石九號	五四六、四〇〇	一〇九、八七〇	〇、二〇一
茶千石十二號	四九五、四〇〇	一〇一、八五〇	〇、二〇七
茶千石八十一號	五八五、八〇〇	一一八、九三〇	〇、二〇三
晩生大豆	六二七、五〇〇	二六、三八〇	〇、二〇一

第七章 指導獎勵

一、質疑應答講習講話

文書ニ依ル質疑應答ハ數十件ニ過キサリ。モ參觀ト質疑トヲ兼ネテ來場セルモノ多數ニシテ總テ懇切ニ實地ニ就キ指導及回答ヲ與ヘタリ。講習講話及實地指導ハ縣下十一郡ニ亘リ百四十一日九十九回ニ及ベリ。

第五條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ關スル事務ニ從事ス
第六條 本場ノ業務執行ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

福井縣立種畜場處務規程

- 第一條 場長ハ事務處理ノ爲經伺ノ上場長處務細則ヲ設クルコトヲ得
 - 第二條 場長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得
 - 一、職員ノ配置及事務分掌ニ關スルコト
 - 二、職員ノ歸省看護募參及轉地療養願ヲ許可シ又ハ除服出務ヲ命スルコト
 - 三、職員ノ縣内出張ヲ命スルコト
 - 四、豫定定額内ニ於テ雇員以下ヲ採用解免スルコト
 - 五、其他輕易ナルコト
 - 第三條 場長ハ職員ノ進退功過ヲ知事ニ具申スルコトヲ得 但シ雇員以下ノ功過ニ付テハ經伺ノ上賞與又ハ懲戒ヲ行フモノトス
 - 第四條 場長事故アルトキハ上席技手其事務ヲ代理スヘシ
 - 第五條 場長ハ其ノ主管事務ニ付官公署其他ト照會往復ヲナスコトヲ得
 - 第六條 場長縣外ニ出張セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ職員ヲ縣外ニ出張セシメムトスルトキ亦同シ
- 事急ニシテ前項ノ手續ヲ經ル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ開申スヘシ

第七條 場長ハ毎年二月末日迄ニ翌年度試驗調査ノ設計及事業計劃ヲ立テ知事ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ設計又ハ計劃ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 試驗及調査ノ成績ハ其結了ノ都度事務及業務功程報告書ハ年度終了後一箇月内ニ場長ヨリ知事ニ提出スヘシ

福井縣立種畜場處務細則

第一章 事務分掌

- 第一條 本場ニ左ノ係ヲ置ク
 - 一、業務係
 - 二、庶務係
- 第二條 各係ノ分掌事項左ノ如シ
 - 業務係
 - 一、種畜種禽蕃殖並ニ育成ニ關スル事項
 - 二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項
 - 三、種付受託育成ニ關スル事項
 - 四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛試驗ニ關スル事項
 - 五、家畜家禽ノ肥膾法及乳牛能力試驗ニ關スル事項
 - 六、乳製品及肉製品ノ試驗ニ關スル事項
 - 七、家畜家禽ノ飼料試驗ニ關スル事項
 - 八、家畜家禽ノ衛生及畜舎ノ整理ニ關スル事項

- 九、耕作ニ關スル事項
- 一〇、畜産ニ關スル講習講話及質疑應答ニ關スル事項
- 一一、練習生ノ養成ニ關スル事項
- 一二、畜産上特ニ必要ト認メタル事項

庶務係

- 一、場長印及場印保管ニ關スル事項
- 二、職員備員練習生ノ身分進退服務ニ關スル事項
- 三、機密ニ關スル事項
- 四、場内取締ニ關スル事項
- 五、文書物品ノ收受整理保存ニ關スル事項
- 六、物品購入、生産物並不用品處分ニ關スル事項
- 七、經費豫算ニ關スル事項
- 八、財産管理ニ關スル事項
- 九、會計整理ニ關スル事項
- 一〇、他係ニ屬セザル事項

第二章 庶務順序

- 第三條 本場ニ到達シタル公文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ收受シ文書件名簿ニ記載ノ上場長ノ檢印ヲ受ケ主任者ニ交付スルモノトス但シ親展ノ表記アルモノハ其ノ旨記載シ受信者ニ交付スヘシ
- 第四條 機密文書ハ場長ノ指揮ニ依リ處理スヘシ
- 第五條 事務ハ凡テ場長ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス 但シ輕易ナルモノハ首席者若ハ主任者ニ委

任スルコトアルヘシ

- 第六條 主任者擔當事務ヲ處理シタル時ハ係員ニ合議ノ上場長ノ決裁ヲ請フヘシ 但シ場長ノ不在ノ場合ハ主任者其ノ代決ヲ爲シ重要事項ハ場長ノ後閱ヲ受クヘシ
- 第七條 生産物ハ其ノ都度數量ヲ一定ノ帳簿ニ記入シ場長ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ賣却又ハ配付スヘキモノ亦同シ
- 第八條 文書ノ決裁ヲ得タル時ニハ直ニ庶務係ニ交付シ庶務係ハ之ヲ淨書シ文書件名簿ニ記入シテ發送スヘシ
- 第九條 本場發送文書ハ畜發第何號受文書ニハ畜收第何號ト記入スヘシ
- 第十條 完結シタル文書ハ左ノ二類ニ分チ主任者ニ於テ之ヲ整理シ後日ノ參考ニ便ナラシムヘシ
 - 第一類 永年
 - 第二類 三ケ年
- 第十一條 文書ノ編纂ハ曆年會計ニ關スル文書ハ會計年度ニ依リ更新スルモノトス

第三章 服務心得

- 第十二條 職員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十三條 職員疾病又ハ事故アリテ出勤シ能ハサル時ハ其ノ事由ヲ記シテ出勤時間迄ニ届出スヘシ若シ疾病ノ爲メ欲勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第十四條 職員出務時間中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ外出セムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族死亡ノ月日及續柄ヲ記シテ届出スヘシ
- 第十六條 父母ノ墓參病氣看護若クハ轉地療養ノ爲他行セムトスルトキハ其ノ期間及行先地ヲ明記シテ其ノ

事由ヲ具シ場長ニ願出許可ヲ受クヘシ轉地療養ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
第十七條 休暇ヲ受ケムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ

休日又ハ執務時間外ニ於テ任地ヲ離レムトスルトキハ其ノ行先ヲ明記シ届出スヘシ賜暇中旅行セムトスルトキハ其ノ旅行日數出發歸場ノ期日及行先地ヲ明記シ届出ツヘシ

第十八條 職員出張シタル時ハ歸場後五日以内ニ復命スヘシ但シ事ノ輕易ニ屬スルモノハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 職員ハ事務ノ繁閑ニ依リ相互補助スヘシ

第二十條 職員退出ノ時ハ諸文書ヲ收藏シ所管ノ重要書類ハ宿直員ニ附託スヘシ

第四章 當直心得

第二十一條 當直ヲ分チテ宿直及日直トス

當直ハ技手又ハ主事補一名ヅ、交替勤務スヘシ

第二十二條 宿直時間ハ勤務時間終了後ヨリ翌日執務時間ノ開始ニ到ル迄トス日直ハ勤務時間限リトス

第二十三條 當直中到達シタル文書又ハ物品ハ當直簿ニ記入シ次ノ當直員又ハ庶務係ニ引繼クヘシ但シ個人又ハ親展ヲ除ク外披見シ至急ト認ムルモノ若クハ電報ハ直チニ主任者ニ通報シ處分スヘシ

第二十四條 當直員ハ時々場内ヲ巡視シテ其ノ取締ヲ爲シ參觀者ノ案内ノ任ニ當ルヘシ

第二十五條 當直ニ缺勤者アルトキハ逐時次番ヲ以テ勤務シ缺勤者ハ隨時償勤スヘシ

左ノ場合ニ於テハ當直ヲ免除ス
一、新任者ハ就職ノ日ヨリ五日間
二、出張員ハ其ノ前日ヨリ歸場ノ當日迄

第二十六條 場内又ハ附近ニ出火其ノ他非常ノ事故アリタル時ハ當直員ハ直チニ場長及場員ニ急報シ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十七條 本則ニ規定ナキモノハ福井縣廳中處務細則ヲ準用ス

種豚種禽種卵配付規程

(昭和五年八月一日 縣告示第三三二號)

第一條 種畜場又ハ委託種禽育成所ニ於テ生産シタル種豚、種禽及種卵ハ本規程ニ依リ有償ヲ以テ之ヲ配付ス

第二條 配付スヘキ種豚、種禽及種卵ノ種類並其ノ價格ハ毎年之ヲ告示ス

第三條 種豚、種禽及種卵ノ配付ハ一人ニ付毎年一回トシ種豚ハ二頭以内種禽ハ十羽以内種卵ハ二十個以内トス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 種豚、種禽又ハ種卵ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル別記様式ノ申請書ヲ毎年六月、十二月各末日迄ニ種畜場長ニ差出スヘシ

一、種豚ニ在リテハ種類、牝牡別配付希望頭數

二、種禽ニ在リテハ種類、雌雄別配付希望羽數及配付ヲ受ケムトスル場所

三、種卵ニ在リテハ種類別配付希望個數及配付ヲ受ケムトスル場所

第五條 種畜場長前條ノ配付ヲ許可シタルトキハ種豚、種禽又ハ種卵ノ種類、性、生年月日、數量、代價配付場所及配付期限ヲ指定シ申請者ニ通知スヘシ

第六條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ期限内ニ指定場所ニ代金ヲ納付シテ現品ノ引渡ヲ受クヘシ若シ代金ヲ納付セス又ハ現品ヲ受取ラサルトキハ種畜場長ハ配付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條 配付ノ許可ヲ受ケタル者ハ種豚、種禽又ハ種卵ノ輸送ヲ請求スルコトヲ得

前項輸送ニ要スル荷造費及運送費ハ申請者ノ負擔トス

輸送中ニ生シタル損害ニ付テハ種畜場長ハ其ノ責ニ任セス 但シ相當ノ事情アル場合ニ於テ種畜場長ハ亡失又ハ損壞セル種豚種禽又ハ種卵ノ全部又ハ一部ヲ無償補充スルコトヲ得

第八條 配付ヲ許可シタル後種豚、種禽又ハ種卵ニシテ斃死、廢疾、破壞其他ノ事由ニ依リ配付不能トナリタルトキハ種畜場長ハ直ニ其ノ許可ヲ取消シ既ニ納付シタル代金又ハ輸送費アルトキハ之ヲ返還ス

第九條 配付ヲ受ケタル者ハ如何ナル理由アルモ代金ノ返還若ハ減額又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十條 配付種豚ノ血統書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ種畜場長ニ請求スヘシ

第十一條 配付ヲ受ケタル者ハ配付ヲ受ケタル日ヨリ種豚ニ在リテハ二ケ年種禽ニ在リテハ一ケ年飼育ノ義務アルモノトス

第十二條 種豚、種畜ノ配付ヲ受ケタル者ハ前條第一項ノ期間内ニ於ケル飼育蕃殖ノ狀況ヲ期間滿了後一ケ月以内ニ種卵ノ配付ヲ受ケタル者ハ其ノ孵化成績ヲ其ノ都度種畜場長ニ報告スヘシ

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則
一、何種牝(雌)又ハ牡(雄)何頭(何羽又ハ何個)

配付場所 種畜場(又ハ何委託種禽育成所)
右種豚種禽種卵配付規程ヲ遵守可致候條御配付相成度此段相願候也
福井縣立種畜場長宛
昭和五年九月二十一日

一、種豚ヨークシャー種	一頭ニ付	乙甲	金八圓
イ、生後六十日	同	乙甲	金五圓
ロ、生後百日	同	乙甲	金拾五圓
ハ、生後百五十日	同	乙甲	金拾五圓
ニ、生後二百日以上	同	乙甲	金貳拾五圓
一、種鶏白色レグホン種名古屋種及三河種		乙甲	金五拾圓
イ、初生雛	一羽ニ付	乙甲	金貳拾錢
ロ、三十日雛	同	乙甲	金參拾五錢
ハ、六十日雛	同	乙甲	金壹圓
ニ、百日雛	同	乙甲	金貳圓

ホ、成 鶏 同 甲 金五圓 乙 金參圓五拾錢 丙 金貳圓五拾錢

一、種卵白色レグホーン種名古屋種及三河種 一箇ニ付 金拾貳錢

種牡牛種付規程

第一條 本規程ハ國有貸付種牡牛及縣立種畜場ニ於テ飼育スル種牡牛ノ種付ニ之ヲ適用ス

第二條 種付ヲ受クヘキ牝牛ノ資格左ノ如シ

- 一、体格優良體質強健性質善良ナルモノ
- 二、年齡滿十八ヶ月以上
- 三、体高四尺以上

四、遺傳性及傳染性疾病ナキモノ

第三條 種付ハ當該種牡牛ノ飼育場所ニ於テ毎日一回午前八時ヨリ日沒時迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ 但シ止ヲ得スニ回行フ場合ハ少クトモ六時間ノ間隙ヲ置クモノトス

第四條 種付希望者ハ第一號様式ノ申込書ヲ種付ノ當日種牡牛ノ管理者ニ差出シ種付ヲ受ケムトスル牝牛ヲ種付場所ニ牽付クヘシ

不受胎ニ因ル次回以降ノ種付希望者ハ前項ノ申込書ニ前回交付ヲ受ケタル種付證ヲ添付スヘシ

第五條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ納入告知書ニ依リ所定ノ種付料ヲ納付スヘシ 但シ受胎セサルカ爲當初種付日ヨリ七十日以内ニ更ニ種付ヲ爲シタル場合ハ之ヲ徵收セス

不受胎其他事由ノ如何ニ拘ハラヌ既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス

第六條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ告示ス

第七條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 國有貸付種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ名稱種類年齡体高毛色特徴種付年月日及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ翌月三日迄ニ當該郡長ニ報告スヘシ

前項報告書ハ種付回数ヲ記載シ第二回以後ニ在リテハ第一回種付ノ日ヨリ七十日以内ニ爲シタルモノト否トテ區別シ附記スヘシ

第九條 種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ對シ種付證ヲ交付スヘシ

第十條 種付ヲ爲シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シタル時ハ事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ種付當時ノ種牡牛管理者ニ届出ツヘシ第一號ノ場合ニ在リテハ分娩ノ場所月日性毛色及特徴ヲ記載スヘシ

一、分娩シタル時

二、分娩前斃死シタル時

三、流産シタルトキ

四、分娩前賣却讓與又ハ交換シタルトキ

第十一條 血統書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ノ請求書ニ種付書ヲ添ヘ種付當日ノ管理者ニ提出スヘシ 但シ第十條第一號ノ手續ヲ爲シタル者ニ對シテハ血統書ヲ下付ス

第十二條 種付シタル牝牛及生産セシ牝牛ニ對シテハ検査ヲ行フコトアルヘシ 前項ノ検査場所ハ其ノ都度管理者之ヲ定ム

(第一號様式)

申込書

名稱	種類	生年月	体高	毛色及特徴	備考
----	----	-----	----	-------	----

右種付致度ニ付御許可相成度種付料ハ御指定ノ期日ニ納付致可候也

年 月 日 宛 住所 所有者又ハ管理者 氏 名

(第二號様式)

血統書下付請求書

名 號	性	生年月日	毛色特徴	生産ノ場所	母牛血統
-----	---	------	------	-------	------

右ハ國有(縣有)何々號ノ種付ニ依リ生産シタル者ニ付血統書御下付相成度種付證相添ヘ請求候也

年 月 日 宛 住所 所有者又ハ管理者 氏 名

福井縣立種畜場候補牝牛拂下規程

- 第一條 畜牛ノ改良増殖獎勵ノ爲メ種畜場生産ノ牝牛ニシテ種牝牛ト爲ルヘキ資質アルモノハ畜産組合、畜産組合聯合會、農會又ハ産業組合ニ限リ之ヲ拂下クルモノトス
- 第二條 前條拂下ノ候補種牝牛ニ關スル事項ハ其ノ都度縣報ヲ以テ之ヲ告示ス
- 第三條 候補種牝牛ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ種畜場長ニ願出ツヘシ
- 第四條 候補種牝牛ノ拂下價格ハ評價格ノ二分ノ一乃至三分ノ一トシ知事ノ認可ヲ得テ種畜場長之ヲ定ム
- 第五條 候補種牝牛ノ拂下ノ通知ヲ受ケタルモノハ指定期日内ニ代金ヲ納付シ現物ヲ引取ルヘシ
前項ノ手續ヲ爲サ、ルモノニ對シテハ拂下ヲ取消スコトアルヘシ
- 第六條 候補種牝牛ハ拂下ノ日ヨリ三箇年ハ其區域内ニ於テ種付ニ供用スル義務アルモノトス 但シ特別ノ事由ニ因リ義務年限内ニ於テ之ヲ賣却、交換、讓渡、貸付又ハ屠殺セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第七條 種畜場長ハ前項ノ承認ヲ爲スニ付知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七號 拂受人前條ノ義務年限内ニ於テ候補種牝牛ニ付盜難、失踪、斃死、撲殺、又ハ種付使用不能ノ事由ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ種畜場長ニ届出ツヘシ但シ斃死ノ場合ニ在リテハ獸醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添付スヘシ
- 第八條 拂受人前二條ノ義務ヲ果サ、ルトキハ拂下當時ノ評價價格ヨリ拂下價格ヲ控除シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ違約金トシテ徴收スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

候補種牡牛拂下願

何頭

一、何種候補種牡牛
右種畜場候補種牡牛拂下規程ヲ遵守可仕候間御拂下相成度此段奉願候也

年 月 日

何郡(市)何々組合(會)長 氏 名 印

福井縣立種畜場長宛

福井縣委託種禽育成所規程

(昭和五年八月一日
縣告示第三三三號)

第一條 家禽ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本規程ニ依リ委託種禽育成所ヲ設ク委託種禽育成所ノ名稱、位置及管理
者氏名ハ之ヲ告示ス

第二條 委託種禽育成所ニ於テハ左ノ事業ヲ行フ

一、種禽、種卵ノ生産配付

二、養鶏ニ關スル調査

第三條 本規程ニ於テ管理者ト稱スルハ委託種禽育成所ノ管理者ヲ謂フ

第四條 管理者ニハ豫想範圍内ニ於テ毎年手當金ヲ交付ス

第五條 委託種禽育成所ノ事業ニ要スル原種禽ハ種畜場ヨリ之ヲ貸付シ斃死又ハ更新ヲ要スル場合ハ之ヲ
補充ス

第六條 管理者ハ原種禽ノ生産シタル卵ノ半數以上ヲ知事ノ告示シタル價格ヲ以テ種卵又ハ種禽トシテ配
付スヘシ

第七條 原種禽ノ受領又ハ返還其ノ他委託種禽育成所ノ事業ニ要スル費用ハ管理者ノ負擔トシ事業ニ伴フ
收入ハ管理者ノ取得トス

第八條 管理者ハ委託種禽育成所ノ事業施行ニ關シテハ種畜場長ノ指示ヲ受クルモノトス

第九條 管理者ハ委託種禽育成所ノ門戸ニ様式第一號ニ依ル標札ヲ掲クヘシ

第十條 縣ノ都合ニ依リ管理者ニ對シ其ノ委託ヲ解除スルコトアルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 管理者ニシテ不都合ノ行爲アリタルトキ又ハ事業ノ成績不良ナルトキハ委託ヲ解除スルコトアル
ヘシ

前項ノ場合ニ於テ飼育中ノ原種禽ハ之ヲ返還セシメ其ノ故意又ハ過失ニ因リ毀傷喪失シタルモノニ付
テハ賠償セシムルコトアルヘシ

第十二條 管理者自己ノ都合ニ依リ其ノ管理ヲ辭退シタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十三條 管理者ハ其ノ事業ニ直接關係ヲ有セサル事項ニ付育成所ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 管理者ハ様式第二號ニ依ル左ノ帳簿ヲ備ヘ其ノ都度記載スヘシ

一、原種禽臺帳
二、産卵處理簿
三、種禽種卵配付簿

第十五條 管理者ハ原種禽ニ付罹病、斃死、盜難又ハ傳染病傳播ノ徵アルトキ其ノ他重要ナル事故ヲ生シタ
ルトキハ直ハ種畜場長ニ報告スヘシ

前項ノ事故管理者ノ過失ニ基因スト認ムルトキハ其ノ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十六條 管理者ハ毎月十日迄ニ前月中ニ於ケル事業成績ヲ様式第三號ニ依リ種畜場長ニ報告スヘシ

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式ハ略ス

七一

委託種禽育成所

(昭和五年八月一日)
縣告示第三三四號

七二

名	稱	位	置	管理者氏名
福井縣足羽委託種禽育成所		足羽郡酒生村荒木新保第二十號三十四番地		五十嵐嘉瑞
全	吉田委託種禽育成所	吉田郡東藤島村上中第二十三號一番地		増田鑑堯
全	坂井第一委託種禽育成所	坂井郡芦原村田中々第三十二號一番地		土橋惣太郎
全	坂井第二委託種禽育成所	坂井郡細呂木村指中第十六號十七番地		伊藤豊
全	大野第一委託種禽育成所	大野郡猪野瀬村片瀬第三十一號六十九番地		平田熙
全	大野第二委託種禽育成所	大野郡下庄村中野第六號二十五番地		鈴木庄太郎
全	今立委託種禽育成所	今立郡新横江村東鯖江第四十七號二十番地		今立郡農會
全	丹生第一委託種禽育成所	丹生郡吉野村家久第一百十號二十二番地		西岡勇
全	丹生第二委託種禽育成所	丹生郡織田村織田第一百號八番地		佐々木甚之助
全	南條委託種禽育成所	南條郡南日野村西大道第十八號十八番地		加藤八郎
全	敦賀委託種禽育成所	敦賀郡敦賀町大黒八十四番地		小倉音吉
全	三方委託種禽育成所	三方郡八村三方第二十四號二十五番地		榎本伊三郎

全	遠敷第一委託種禽育成所	遠敷郡瓜生村下夕中第三十五號十五番地		岡本勘三郎
全	遠敷第二委託種禽育成所	遠敷郡雲濱村西津第六號三十番地		宮前正介
全	大飯第一委託種禽育成所	大飯郡加斗村本所第十八號二十三番地		新崎辰之助
全	大飯第二委託種禽育成所	大飯郡高濱町若宮第二號三番地		一ノ瀬勝太郎

備員心得

- 第一條 備員ハ職員ノ指揮ヲ受ケ懇切叮嚀ヲ旨トシ業務ニ從事スヘシ
- 第二條 備員ハ業務始業時間二十分前ニ出勤シ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第三條 備員ハ業務ノ繁閑ニヨリ互ニ相補ケ現員交代ニ宿直スヘシ
- 第四條 備員ハ日曜祭日ト雖モ出勤スルコトヲ得ス 但シ業務ニ差支ナキ限りハ各員ニ對シテ毎月一日隨時指定シテ休暇ヲ與フルモノトス
- 第五條 疾病忌引又ハ事故ノ爲出勤セムトスルトキハ届出ツヘシ疾病ノ爲出勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ノ添付ヲ要ス 但シ事故ノ爲出勤セムトスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 備員ハ各自取扱器具機械ヲ叮嚀ニ扱ヒ常ニ清淨ナラシメ毀損亡失シタルトキハ其ノ旨係員ニ報告シ指揮ヲ俟ツヘシ
- 第七條 牧手ハ家畜家禽ノ飼養管理ニ注意シ非常事變及動物ニ異常アルヲ認メタルトキハ直ニ係員ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ 但シ急ヲ要スル場合ハ便宜應急處置ヲ施シ直ニ係員ニ報告スヘシ

第八條 農手ハ耕耘及收穫物ノ保存農事ニ關スル一切ニ注意スヘシ
 第九條 小使ハ場内ノ用ヲ辯シ職員退出後ハ事務所内外ヲ掃除シ戸締火氣等ニ注意スヘシ
 第十條 宿直ノ際ハ場内外及畜舎ヲ巡視シ戸締火氣及ヒ家畜家禽ノ状態ニ注意シ苟モ異常ヲ認ムルニ於テハ其旨場員ニ急報スヘシ
 第十一條 備員ハ執務時間外ト雖モ場又ハ附近ニ變災アルトキハ速ニ出場スヘシ
 第十二條 牧手農手ノ就業時間左ノ如シ
 但シ場務ノ都合ニ依リテハ幾分ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一、牧手就業及休憩時間表

月別	作業時間	朝食及休憩時間	作業時間	晝食及休憩時間	作業時間
自一月一日至三月十五日	自午前七時三十分至同八時三十分	自午前八時三十分至同九時三十分	自午前九時三十分至同十二時	自午後零時一分至同零時一分	自午後一時一分至同五時一分
自三月十六日至四月三十日	自同六時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同五時三十分至同一時一分
五月	自同六時三十分至同七時三十分	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時一分
六月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同六時三十分至同一時一分
七月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同六時三十分至同一時一分
八月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同六時三十分至同一時一分
九月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同六時三十分至同一時一分
十月	自同六時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同五時三十分至同一時一分

十一月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同五時一分至同一時一分
十二月	自同七時三十分至同八時三十分	自同八時三十分至同九時三十分	自同九時三十分至同十二時	自同零時一分至同零時一分	自同五時一分至同一時一分



二、農手就業及休憩時間表

月別	始業時間	晝食及休憩時間	終業時間
一月	午前八時	自正午十一時至正午十二時	午後五時
二月	同	同	同
三月	同	同	同
四月	同	同	同
五月	同上	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同
六月	同上	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同
七月	同	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同上
八月	同	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同上
九月	同	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同上
十月	同上	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同
十一月	同	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同
十二月	同	自正午十一時三十分至正午十二時三十分	同

種 牡 牛 表

(昭和七年三月末現在)

縣有種牡牛

名 號	種 類	生 年 月 日	産 地	飼 養 者
インカサーダツチランド アーチス號	ホルスタイン種	昭和四年一月二十日	千葉縣	福井縣立種畜場
デアマンチエー二世號	同	大正十五年六月	當場	遠敷郡畜産組合
ヒルダ三世號	同	同 十五年七月	當場	吉田郡畜産組合
第七十六ヘンドリック號	同	同 八年一月廿八日	同上	大飯郡畜産組合
出雲二世號	改良和種	昭和二年二月	同上	福井縣立種畜場
蓬萊號	同	大正十四年	鳥取縣	遠敷郡畜産組合

昭和七年十月八日印刷
昭和七年十月十五日發行

福井縣立種畜場

福井市佐佐木上町八十三
印刷人 湯淺貞吉

福井市佐佐木上町八十三
印刷所 文好堂印刷所

種 牡 牛 表

(昭和七年三月末現在)

縣有種牡牛

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
インカサレグツチランド ア―チス號		ホルスタイン種		昭和四年	一月	二十日		千葉縣		福井縣立種畜場		
デアマンチエー二世號		同		大正十五年	六月			當場		遠敷郡畜産組合		
ヒルダ三世號		同		同	十五年	七月		當場		吉田郡畜産組合		
第七十六ヘンドリック號		同		同	八年	一月	廿八日	同上		大飯郡畜産組合		
出雲二世號		改良和種		昭和二年	二月			同上		福井縣立種畜場		
蓬菜	號同			大正十四年				鳥取縣		遠敷郡畜産組合		

昭和七年十月八日印刷
昭和七年十月十五日發行

福井縣立種畜場

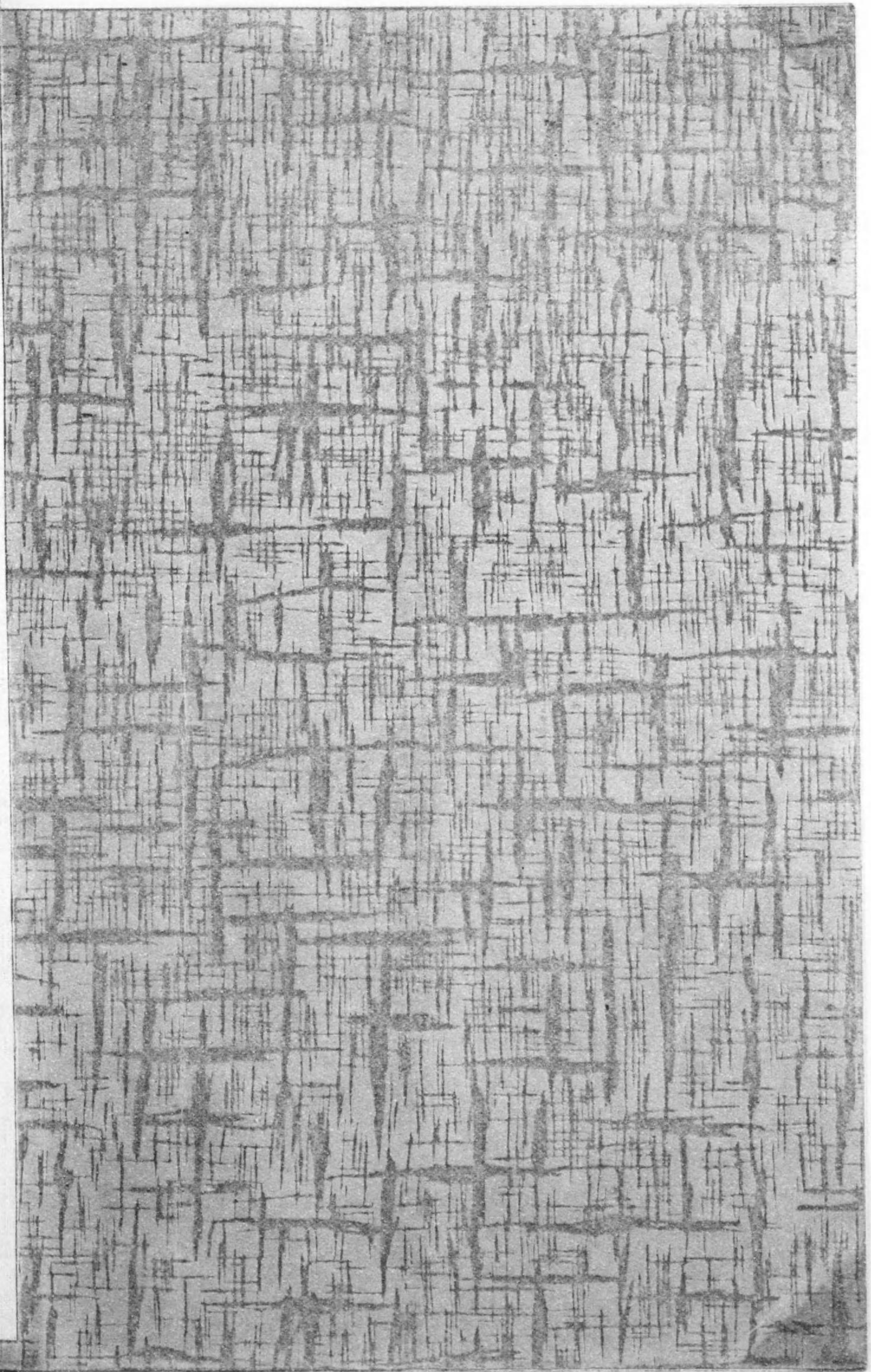
福井市佐佳枝上町八十三

印刷人 湯 淺 貞 吉

福井市佐佳枝上町八十三

印刷所 文好堂印刷所

142
1
574



終